

(様式第 10)

鹿大医歯病総第 7 1 4 号
平成 2 7 年 1 0 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人鹿児島大学長

前田 芳 實

(印)

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 6 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番24号
氏 名	国立大学法人鹿児島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鹿児島大学病院

3 所在の場所

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号	電話(099) 275-5111
-------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 リウマチ科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 呼吸器外科	2 消化器外科	3 心臓血管外科	4 小児外科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科	(2)小児科	(3)整形外科	(4)脳神経外科	(5)皮膚科	(6)泌尿器科	7産婦人科
(8)産科	(9)婦人科	(10)眼科	(11)耳鼻咽喉科	(12)放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		(15)麻酔科	(16)救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 矯正歯科	2 小児歯科	3 歯科口腔外科	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	0床	13床	0床	662床	715床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	210人	266人	419.7人	看護補助者	69人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	102人	37人	132.5人	理学療法士	12人	臨床検査技師	45人
薬剤師	47人	5人	52人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	5人
助産師	20人	1人	20.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	646人	19人	662.4人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	12人	4人	16人	歯科技工士	5人	事務職員	170人
管理栄養士	6人	4人	10人	診療放射線技師	37人	その他の職員	39人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	15人	眼科専門医	11人
外科専門医	41人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	17人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	17人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	11人
泌尿器科専門医	15人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	2人
		合 計	205人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	527.9人	26.2人	554.1人
1日当たり平均外来患者数	832.5人	397.3人	1,229.8人
1日当たり平均調剤数			1,351剤
必要医師数			111人
必要歯科医師数			8人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			322人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	725m ²	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 245m ² [移動式の場合] 台数 9台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 30m ² [共用室の場合] 共用する室名 無					
化学検査室	304 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ディスク方式臨床化学自動分析装置、免疫比濁分析装置、免疫蛍光分析装置、免疫発光測定装置、蛋白分画電気泳動分析装置、グルコース分析装置、グリコヘモグロビン分析装置、血液計数装置、血液塗抹標本作製装置、フローサイトメータ			
細菌検査室	45 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養自動分析装置、遺伝子解析装置、嫌気培養装置、炭酸ガス培養装置、抗酸菌培養検査装置、免疫蛍光測定装置、微生物分類同定分析装置、微生物由来成分分析装置、微生物感受性分析装置			
病理検査室	39 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、滑走式マイクローム、自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色・ISH装置、凍結切片作製装置、集細胞遠心装置、顕微鏡、病理・細胞診検査業務支援システム			
病理解剖室	273 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) バイオハザード対応排気システム、排水蒸気滅菌処理システム			
研究室	8,026 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ガスクロマトグラフ、電子顕微鏡			
講義室	655 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	499人
図書室	1,980 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	190,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	80.2%	逆紹介率	63.5%
算出根拠 A: 紹介患者の数			13,536人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,183人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			598人
抛 D: 初診の患者の数			17,613人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	91人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	62人	・広範脊柱管狭窄症	75人
・重症筋無力症	95人	・原発性胆汁性肝硬変	154人
・全身性エリテマトーデス	312人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	85人
・再生不良性貧血	35人	・混合性結合組織病	33人
・サルコイドーシス	120人	・原発性免疫不全症候群	12人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	18人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	248人	・網膜色素変性症	73人
・特発性血小板減少性紫斑病	65人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	32人	・肺動脈性肺高血圧症	28人
・潰瘍性大腸炎	73人	・神経線維腫症	57人
・大動脈炎症候群	33人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	20人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	21人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	23人
・脊髄小脳変性症	49人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	46人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	11人	・脊髄性筋萎縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	64人	・球脊髄性筋萎縮症	4人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16人
・後縦靭帯骨化症	81人	・肥大型心筋症	15人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	45人	・ミトコンドリア病	18人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	12人	・黄色靭帯骨化症	13人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	247人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科外来診療環境体制加算	・総合評価加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料1
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算1	・短期滞在手術等基本料2
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・胎児心エコー法
・高度難聴指導管理料	・時間内歩行試験
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料1	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料2	・神経学的検査
・がん患者指導管理料3	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・ロービジョン検査判断料
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・歯科画像診断管理加算1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・歯科画像診断管理加算2
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・大腸CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心臓MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(I)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(IV)	・無菌製剤処理科
・遺伝カウンセリング加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・植込型心電図検査	・運動器リハビリテーション料(I)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・がん患者リハビリテーション料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・集団コミュニケーション療法料	・ゲル重点人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術
・認知療法・認知行動療法1	・経皮的冠動脈ステント留置術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・補助人工心臓
・一酸化窒素吸入療法	・経皮的動脈遮断術2
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ダメージコントロール手術2
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下肝切除術
・手術時歯根面レーザー応用加算	・生体部分肝移植術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腎腸瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・網膜再建術	・同種死体腎移植術
・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・生体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・膀胱水圧拡張術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・人工尿道括約筋植込・置換術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・歯科矯正診断料
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び通則6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・胃瘻造設術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・輸血管理料Ⅱ	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱増設術前措置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	136回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 11例 / 剖検率 7.64%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
データマイニング技法を応用した医療の質とコストの適正化要因の発見手法に関する研究	熊本 一郎	病院長	3,120,000	補○ 委 日本学術振興会
えびの市におけるメタボリックシンドロームの状況に関する研究	大石 充	心臓血管内科	2,000,000	補 委○ えびの市
地域住民における脳血管疾患発症に対して効果的な血压管理についての検討	大石 充	心臓血管内科	2,160,000	補 委○ 枕崎市立病院
左室充満圧評価におけるドプラ心エコーによる僧帽弁血流・弁輪速度比(E/E')および肺静脈血流速度比(S/D)併用の有用性の検討	大石 充	心臓血管内科	500,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院
正常駆出率の低圧較差および高圧較差大動脈弁狭窄症の動脈硬化度の比較・検討	大石 充	心臓血管内科	1,000,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
僧帽弁逸脱症における僧帽弁tentingの重要性 3D経食道エコー法を用いた検討	大石 充	心臓血管内科	1,300,000	補 委○ 出水市
サルコペニアにおけるレニン・アンジオテンシン系の作用およびメカニズムの解明	赤崎 雄一	心臓血管内科	1,950,000	補○ 委 日本学術振興会
CFAEアブレーションを軸とした慢性心房細動の包括的新規治療法の開発	桶谷 直也	心臓血管内科	1,040,000	補○ 委 日本学術振興会
葉酸レセプターβ抗体を用いた分子イメージングの前臨床試験と新規診断法の開発	宮田 昌明	心臓血管内科	2,210,000	補○ 委 日本学術振興会
重症虚血肢における下腿バイパス術に関する研究	井本 浩	心臓血管外科	1,000,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織修復マクロファージに発現する新規分子Gpnmbの肝癌の発育・進展に及ぼす影響	井戸 章雄	消化器内科	2,600,000	補○委 日本学術振興会
腸管恒常性維持機構におけるフルクトースの影響の解明	上村 修司	消化器内科	2,340,000	補○委 日本学術振興会
早期大腸癌に対するESD術前超音波内視鏡検査の有用性(鹿児島県下)	井戸 章雄	消化器内科	500,000	補○委 (公社)肝属郡医師会立病院
生活習慣病が消化器疾患や腎疾患の病態進展に及ぼす影響に関する研究	井戸 章雄	消化器内科	2,000,000	補○委 国民健康保険高原病院
重症喘息およびCOPD患者の地域特性にも関連したコホート研究	東元 一晃	消化器内科	1,300,000	補○委 出水市
大腸隆起性病変に対する超音波内視鏡(EUS)専用機の安全性と有用性	井戸 章雄	消化器内科	6,500,000	補○委 出水市
消化器癌の微量癌細胞の着床・増殖機序の解明と臨床応用	夏越 祥次	消化器外科	6,110,000	補○委 日本学術振興会
食道癌幹細胞を標的とした新しい集学的治療体系の確立	奥村 浩	消化器外科	1,170,000	補○委 日本学術振興会
消化器癌における免疫回避機構の解明とその制御に関する基礎的研究	有上 貴明	消化器外科	2,730,000	補○委 日本学術振興会
乳癌治療時の遊離真皮脂肪片(FDFG)移植に関する基礎的・臨床的研究	喜島 祐子	消化器外科	1,560,000	補○委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
頭側尾側アプローチによる新しい内視鏡下頸部郭清術に関する研究	中条 哲浩	消化器外科	1,560,000	補○ 委 日本学術振興会
食道癌の治療効果予測・再発予測に関する新規N型糖鎖マーカーの開発	内門 泰斗	消化器外科	1,690,000	補○ 委 日本学術振興会
膵臓癌のリンパ行性転移のメカニズム解明とその制御法確立のための基礎的研究	蔵原 弘	消化器外科	1,040,000	補○ 委 日本学術振興会
5-アミノレブリン酸とICGを用いた大腸癌術中蛍光診断法の開発	馬場 研二	消化器外科	1,040,000	補○ 委 日本学術振興会
消化器癌における術前化学療法および放射線療法の感受性に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	3,000,000	補 委○ 小林市立病院
消化器癌における化学療法および放射線療法の感受性に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補 委○ えびの市
癌の進展に対する診断の精度向上に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補 委○ 国民健康保険高原病院
消化器癌治療における術前化学療法および放射線療法の感受性に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	1,000,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
癌の進展に対する診断の精度向上に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補 委○ 国民健康保険高原病院
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	喜島 祐子	消化器外科	300,000	補 委○ (公財)パブリックヘルスリサーチセンター

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

4

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	喜島 祐子	消化器外科	400,000	補 委○ 理化学研究所
次世代遺伝子解析による新型脳炎の原因究明及び神経感染症診断システムの構築	高嶋 博	神経内科	6,630,000	補○ 委 日本学術振興会
自己免疫性脳炎の病態解析および新規抗原の解明	渡邊 修	神経内科	1,560,000	補○ 委 日本学術振興会
Charcot-Marie-Tooth病の分子病態の解析と治療薬探索	岡本 裕嗣	神経内科	1,690,000	補○ 委 日本学術振興会
神経筋疾患の原因究明および革新的治療法開発	高嶋 博	神経内科	30,000,000	補 委○ 厚生労働省
難治性ニューロパチーの診断技術と治療法に関する研究	高嶋 博	神経内科	600,000	補 委○ 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
早期パーキンソン病の診断に関する検討	高嶋 博	神経内科	1,000,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院
パーキンソン病の診断に関する検討	高嶋 博	神経内科	1,300,000	補 委○ 出水市
Isaacs症候群の病態マーカーの開発	高嶋 博	神経内科	300,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
平成26年度治験推進研究事業(治験の実施に関する研究[サリドマイド])	渡邊 修	神経内科	1,000,000	補 委○ (公社)日本医師会治験促進センター

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
視床痛モデルマウスの確立と視床痛発症メカニズムの基礎的検討	有田 和徳	脳神経外科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒトの言語-運動連関のメカニズムの磁気刺激を用いた解明および機能回復への応用	時村 洋	脳神経外科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
難治性てんかんにおけるSVA2およびシナプス小胞放出機構障害の検討	花谷 亮典	脳神経外科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
新規脂肪酸受容体GPR40を介する疼痛抑制メカニズムの研究	大吉 達樹	脳神経外科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
グリオーマにおけるSHHと遊走能の関係	内田 裕之	脳神経外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
COPDに関する啓発と早期発見のための方策に関する研究	井上 博雅	呼吸器内科	10,000,000	補○ 委	厚生労働省
自然免疫認識機構に基づく難治性炎症性・感染症肺疾患の病態解析	井上 博雅	呼吸器内科	6,500,000	補○ 委	日本学術振興会
気管支喘息における非神経性コリン性炎症の関与と制御に関する研究	東元 一晃	呼吸器内科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
サルコイドーシスにおけるバイオマーカーの検討	井上 博雅	呼吸器内科	750,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
重症喘息およびCOPD患者のコホート研究とバイオマーカー探索	井上 博雅	呼吸器内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

6

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ミトコンドリア多形解析に基づいた肺腺癌ドライバー変異体系化と発癌時遺伝子変異予測	佐藤 雅美	呼吸器外科	1,170,000	補○委 日本学術振興会
マイクロRNA発現解析に基づいた新しい肺移植後閉塞性細気管支炎治療法の確立	渡辺 有為	呼吸器外科	2,470,000	補○委 日本学術振興会
メタボロミクスを用いた食欲調節ペプチド自己抗体症候群の総合的解析	乾 明夫	心身医療科	3,770,000	補○委 日本学術振興会
終末期における生活の質の向上—アシルグレリンシグナルからのアプローチ—	浅川 明弘	心身医療科	1,430,000	補○委 日本学術振興会
肥満症における病態特異的グレリン自己抗体の同定	乾 明夫	心身医療科	1,040,000	補○委 日本学術振興会
摂食障害の食欲および食行動調節におけるアディポネクチンの役割	網谷 東方	心身医療科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
サルコペニアの病態解明と治療法の開発	浅川 明弘	心身医療科	2,500,000	補○委 日本学術振興会
膀胱癌に対するナノミセルを介した癌抑制型マイクロRNAによる新規核酸治療の開発	榎田 英樹	泌尿器科	6,890,000	補○委 日本学術振興会
機能性RNA分子ネットワーク解析による膀胱がんの新規個別化治療の確立	中川 昌之	泌尿器科	910,000	補○委 日本学術振興会
血中低分子核酸を指標にした腎細胞癌新規腫瘍マーカーの開発	鏑野 秀一	泌尿器科	1,300,000	補○委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

7

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
膀胱癌転移モデルマウスを用いた癌抑制型マイクロRNAの増殖/転移抑制機構の解明	井手迫 俊彦	泌尿器科	3,510,000	補○ 委 日本学術振興会
機能性RNAネットワーク解析に基づく腎癌低酸素耐性機構の解明	千代丸 剛	泌尿器科	3,120,000	補○ 委 日本学術振興会
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験	中川 昌之	泌尿器科	2,000,000	補 委○ 小林市立病院
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験(継続)	中川 昌之	泌尿器科	3,000,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験(継続)	中川 昌之	泌尿器科	300,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
特異的キメラ抗原受容体導入T細胞によるATLへの免疫遺伝子治療法開発.	吉満 誠	血液・膠原病内科	1,560,000	補○ 委 日本学術振興会
インターフェロン・ジドブジンを用いたATL治療における細胞障害性T細胞機能の評価	有馬 直道	血液・膠原病内科	300,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
高齢糖尿病患者の運動機能と自律神経障害に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	250,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院
糖尿病性多発神経障害の臨床病期の前向き研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	500,000	補 委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
Choreinとミトコンドリア関連細胞死の関連について	中村 雅之	神経科精神科	1,040,000	補○ 委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
造血幹細胞の加齢に関する研究—移植による変化—	河野 嘉文	小児科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
多周波数インピーダンス法を応用した硬性浮腫の客観的評価導入による川崎病重症度評価	野村 裕一	小児科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
WT1蛋白を標的とするナノ粒子を用いた白血病の高感度MRD診断法の確立	岡本 康裕	小児科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
シクロフォスファミドの心筋障害のメカニズムと発症予防法の探求	西川 拓朗	小児科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
川崎病血管炎における冠動脈後遺症発症の機序の解明	上野 健太郎	小児科	3,120,000	補○ 委	日本学術振興会
枕崎地区における小児予防接種率向上と小児医療体制充実にに関する研究	河野 嘉文	小児科	1,080,000	補 委○	枕崎市立病院
出水地区における小児予防接種率向上と小児医療体制充実にに関する研究	河野 嘉文	小児科	2,600,000	補 委○	出水市
短腸症候群におけるGhrelin、GLP-2を用いた残存腸管順応誘導の開発	向井 基	小児外科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
不妊専門相談支援推進研究	堂地 勉	産科、婦人科	619,542	補 委○	鹿児島県
婦人科悪性腫瘍に対する血管新生阻害薬の効果予測マーカーの探索	戸上 真一	産科、婦人科	1,300,000	補 委○	出水市

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

9

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
卵巣癌腹膜播種に対するTatペプチドをベクターとしたカルボニンh1遺伝子治療	小林 裕明	産科、婦人科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
薬剤によるマクロファージオートファジー抑制による人工関節長期耐用研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
Notchシグナル下流因子HEY1制御による骨軟部腫瘍転移抑制	山元 拓哉	整形外科・リウマチ科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
軟骨肉腫分化誘導療法に向けたTGF- β シグナルの標的遺伝子検索と機能解析	横内 雅博	整形外科・リウマチ科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
骨軟部腫瘍に対する新規遺伝子治療ベクターの開発—GLI2をターゲットとして	永野 聡	整形外科・リウマチ科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
Smpd3の軟骨細胞肥大分化及びヒアルロン酸産生減少における機能解析	梶 博則	整形外科・リウマチ科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
霊長類脊髄損傷モデルを用いたiPS細胞由来神経幹細胞移植と分化制御による再生治療	精松 昌彦	整形外科・リウマチ科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
横紋筋肉腫における増殖シグナルの研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ科	2,000,000	補 委○	小林市立病院
軟骨分化におけるインプリンティング遺伝子の機能の解明	小宮 節郎	整形外科・リウマチ科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
慢性圧迫性脊髄障害に対するオートファジー亢進薬剤による神経保護作用の解析	田邊 史	整形外科・リウマチ科	910,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腫瘍細胞の生存調節因子としてのCD147/basiginの機能解析	金蔵 拓郎	皮膚科	910,000	補○委 日本学術振興会
有棘細胞癌・乳房外パジェット病における新規化学療法レジメンの確立と個別化への応用	松下 茂人	皮膚科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
HDAC阻害剤の併用療法のターゲットとしてのHSP70の可能性の探究	藤井 一恭	皮膚科	1,040,000	補○委 日本学術振興会
硝子体の基盤病態の解明と制御機構の研究	坂本 泰二	眼科	5,330,000	補○委 日本学術振興会
眼内薬物治療の飛躍的効果向上の研究:自然免疫の関与について	坂本 泰二	眼科	910,000	補○委 日本学術振興会
極性の変化による網膜色素上皮の環境制御に関する研究	園田 祥三	眼科	1,040,000	補○委 日本学術振興会
内眼炎発症に関連する遺伝子多型の解析と個別化医療への応用	中尾 久美子	眼科	1,170,000	補○委 日本学術振興会
眼軸長伸長に伴う眼底微細構造変化の解明	山下 高明	眼科	1,690,000	補○委 日本学術振興会
網膜剥離における分子病態の解析	大塚 寛樹	眼科	1,170,000	補○委 日本学術振興会
硝子体生物学の研究	坂本 泰二	眼科	1,000,000	補○委 (公財)高齢者眼疾患研究財団

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

11

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
鹿児島県内眼科疾患の研究	坂本 泰二	眼科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師 会立病院
垂水地区における小中学生の 眼疾患の疫学的調査	坂本 泰二	眼科	800,000	補 委○	垂水市立医療セン ター垂水中央病院
ホスホリルコリンを用いた多機 能性粘膜ワクチンの開発	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
Phosphorylcholine経皮投与に よる粘膜免疫応答の誘導と制 御機構の解明	永野 広海	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
鹿児島県内の小中学生におけ る耳鼻咽喉科疾患の疫学的調 査研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	670,700	補 委○	西之表市
垂水市内の小中学生における 耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査 研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	246,740	補 委○	垂水市
佐藤式彎曲型咽喉頭直達鏡を 用いた咽頭・頸部食道異物摘 出の有用性	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	300,000	補 委○	垂水市立医療セン ター垂水中央病院
屋久島町における耳鼻咽喉科 疾患の疫学的調査	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	620,000	補 委○	屋久島町
ウサギ脂肪肝モデルを用いた 門脈塞栓術の検討	林 完勇	放射線科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
pH強調MR画像の開発と急性 期脳梗塞における組織予後推 定への応用	吉浦 敬	放射線科	6,240,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
MR分子イメージングによる脳内アミロイド検出法の開発：PET/MRIを用いた研究	吉浦 敬	放射線科	1,950,000	補○委 日本学術振興会
口腔癌のリンパ節微小転移に焦点を当てた血流動態変化の流体力学的・画像工学的解析	佐藤 強志	顎顔面放射線科	1,040,000	補○委 日本学術振興会
周術期ストレスホルモンによる体温調節機構	上村 裕一	麻酔科	4,940,000	補○委 日本学術振興会
術後痛と創傷治癒におけるTRPA1チャンネルの役割	長谷川 麻衣子	麻酔科	1,690,000	補○委 日本学術振興会
PACAP-PAC1誘発アストロサイトシグナル伝達を標的とする慢性疼痛治療戦略	大納 哲也	麻酔科	1,950,000	補○委 日本学術振興会
肝虚血再灌流障害における細胞外ヒストンの修飾を介した麻酔薬の臓器保護作用の検討	中原 真由美	麻酔科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
TRPA1による酸素感知の意義	黒木 千晴	麻酔科	2,340,000	補○委 日本学術振興会
脳損傷後の運動障害への包括的リハビリテーション法の開発とその作用メカニズムの解明	下堂 蘭 恵	リハビリテーション科	2,210,000	補○委 日本学術振興会
経頭蓋磁気刺激を同期させた促通反復療法と低周波、振動刺激併用による片麻痺治療	衛藤 誠二	リハビリテーション科	1,950,000	補○委 日本学術振興会
温度受容体の神経因性膀胱の病態への関与の解明	吉田 輝	リハビリテーション科	1,820,000	補○委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

13

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳卒中片麻痺に対する神経筋電気刺激の効果	松元 秀次	リハビリテーション科	780,000	補○ 委	日本学術振興会
視野欠損リハビリテーションのfMRI・NIRSによる評価	宮田 隆司	リハビリテーション科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
Rey-Osterriethの図なぞり書き課題を用いた新しい高次脳機能障害評価法の検討	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター 垂水中央病院
歯科治療中の笑気吸入とイー ジーリスニングが自律神経機能 に及ぼす影響	梶山 加綱	歯科麻酔科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
血管内皮機能と指尖容積脈波 からみた理想的な全身麻酔法 の開発	糺谷 淳	歯科麻酔科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
咽頭・食道・胃の知覚異常と運 動機能の低下が不正咬合を引 き起こす仮説の検証	宮脇 正一	矯正歯科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
脳-腸相関を軸とした顎口腔と 胃食道との間の知覚-運動制 御機構と関連疾患の解明	宮脇 正一	矯正歯科	3,380,000	補○ 委	日本学術振興会
消化器内科的アプローチによ る咀嚼筋障害の根本療法の開 発	高田 寛子	矯正歯科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞への転写因子Msx2 導入による骨芽細胞への分化・ 骨形成に関する研究	山本 芳丈	矯正歯科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
新たな自動皮質骨埋入型アン カースクリューを用いた顎整形 力付与治療システムの考案	友成 博	矯正歯科	2,470,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

14

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳機能を介した片頭痛－酸関連疾患－顎関節症の負のサイクルの解明	永山 邦宏	矯正歯科	1,560,000	補○委 日本学術振興会
咀嚼による胃の運動機能調整における自律神経機能と消化管ホルモンの役割の解明	大牟禮 治人	矯正歯科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
脳・消化管ペプチドによる顎口腔異常機能活動の発現機序の解明	八木 孝和	矯正歯科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
現在考えられ得る全ての脱落要因を排除した矯正用皮質骨インプラントシステムの開発	國則 貴玄	矯正歯科	780,000	補○委 日本学術振興会
内臓感覚賦活化による口腔生理機能の再生－脳腸相関モデルとPETイメージング解析－	植田 紘貴	矯正歯科	1,040,000	補○委 日本学術振興会
唇顎口蓋裂を伴う患者の脳－腸相関を軸とした顎口腔・食道・胃の機能的相関の解明	上原 沢子	矯正歯科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
口腔細菌による動脈硬化発症における先天性免疫因子gp-340の関与	於保 孝彦	口腔保健科	1,690,000	補○委 日本学術振興会
頭頸部周術期口腔ケアにおける口腔清掃度の評価－心理学的アプローチと細菌学的検証－	五月女 さき子	口腔保健科	1,560,000	補○委 日本学術振興会
ヒト歯垢による動脈硬化誘発機序の実験的解明	長田 恵美	口腔保健科	1,950,000	補○委 日本学術振興会
独自の視点からのヒト歯髄幹細胞の同定、選択的濃縮および特性解析	稲田 絵美	小児歯科	1,300,000	補○委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

15

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児期気道通気障害による吸気時過大陰圧の漏斗胸原因・増悪因子としての機序解明	岩崎 智憲	小児歯科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
小児OSASの陥没呼吸と胸郭変形に関する流体構造連成解析を用いた気道通気状態評価	深水 篤	小児歯科	520,000	補○ 委	日本学術振興会
気道通気障害と口蓋扁桃肥大が小児の咀嚼・嚥下機能におよぼす包括的研究	山崎 要一	小児歯科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
真の癌幹細胞マーカーは、未分化細胞特異的転写因子Oct-3/4であることの証明	窪田 直子	小児歯科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
上気道通気障害小児の過大吸気陰圧は下顎を後退させる一流体構造連成解析を用いて	山崎 要一	小児歯科	3,120,000	補○ 委	日本学術振興会
いびきの音響解析を用いた新たな口腔内装置の適応基準の確立	菅 北斗	小児歯科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
小児の口呼吸における関連因子の抽出と治療方法の確立	村上 大輔	小児歯科	300,000	補○ 委	(公財)富徳会
新規歯科材料としての熱応答性ポリウレタンの基礎的研究	富田 浩一	保存科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
インクレチン関連薬は根尖性歯周炎と辺縁性歯周炎の発症機序に影響を及ぼすか？	作田 哲也	保存科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
MK615の歯科医学への応用に向けて:抗う蝕・抗歯周病特性の解析	森元 陽子	保存科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
覆髄剤貼付による壊死層形成の役割-3D培養によるアラミンの硬組織誘導の解析-	宮下 桂子	保存科	2,730,000	補○ 委	日本学術振興会
歯髄象牙芽細胞複合体における痛覚の発生メカニズムの解析	達山 祥子	保存科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
ジルコニア/陶材傾斜機能材料の創製と歯冠修復への応用	塚田 岳司	保存科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
象牙質知覚過敏症における知覚メカニズムの解明:浸透圧による象牙芽細胞の応答	徳田 雅行	保存科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
脱分化脂肪細胞DFATを用いた歯周・顎骨組織欠損に対する新規再生治療法の基盤開発	野口 和行	歯周病科	4,290,000	補○ 委	日本学術振興会
光殺菌法と進化型多血小板血漿/細胞複合体注入によるインプラント周囲炎治療法の確立	松山 孝司	歯周病科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
iPS細胞由来の高純度間葉系幹細胞を用いた新規歯周組織再生療法に関する研究	迫田 賢二	歯周病科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
BMP-9を軸とした新規歯周・顎骨組織再生療法の基盤確立に向けた多面的アプローチ	中村 利明	歯周病科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
成長因子と矯正力によるバイオメカノエンジニアリングで切り拓く歯周再生療法の新展開	白方 良典	歯周病科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
早産・低体重児出産のリスク低減に向けた原因因子の解明に関する包括的アプローチ	長谷川 梢	歯周病科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

17

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
咀嚼感覚と耐久性に優れた新規ウレタン系軟性裏装材の開発研究	門川 明彦	冠・ブリッジ科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
自己修復機能を有する樹脂を用いた義歯の滑沢を保つコーティング材の開発	南 弘之	冠・ブリッジ科	2,340,000	補○ 委	日本学術振興会
脈管再生能を主体とする顎堤増生治療の開発	西村 正宏	義歯補綴科	7,930,000	補○ 委	日本学術振興会
自発的骨膜挙上能をもつ骨補填材の開発	西村 正宏	義歯補綴科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
全身疾患をもたらす Streptococcus mutans 新規病原性因子の同定	藤島 慶	義歯補綴科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
Aa による歯周病とアテローム性動脈硬化症の発症への関与について	下田平 直大	義歯補綴科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
顎骨骨髓由来間質細胞を用いた歯槽骨再生のための骨分化能診断法の開発	末廣 史雄	義歯補綴科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
食事栄養指導ツール開発のための咀嚼・嚥下機能と食事・栄養状態の関連の検討	西 恭宏	義歯補綴科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
効果的な保湿が口腔乾燥義歯患者の口腔および咽頭の細菌叢を正常化する	村上 格	義歯補綴科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
2型糖尿病ラットにおけるチタンインプラントの生体力学的・組織形態計測学的解析	橋口 千琴	義歯補綴科	780,000	補○ 委	日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

18

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脈管再生能を主体とする顎堤増生治療の開発	西村 正宏	義歯補綴科	7,930,000	補○委 日本学術振興会
自発的骨膜拳上能を持つ骨補填材の開発	西村 正宏	義歯補綴科	1,820,000	補○委 日本学術振興会
MUC1遺伝子スプライシング異常が口腔癌に及ぼす影響	濱田 倫史	口腔外科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
うがい液からの口腔癌発癌予測システムの開発	濱田 倫史	口腔外科	670,000	補○委 科学技術振興機構
薩摩川内市鹿島町における住民の口腔疾患の保健管理に関する研究	杉浦 剛	口腔外科	1,000,000	補委○ 薩摩川内市
エナメル上皮腫の骨浸潤メカニズムにおける上皮-間葉クロストーク	中村 典史	口腔顎顔面外科	2,470,000	補○委 日本学術振興会
歯性感染症病変形成時の上皮発現における上皮-間葉移行(EMT)の関与に関する研究	石畑 清秀	口腔顎顔面外科	910,000	補○委 日本学術振興会
口腔癌の浸潤・転移におけるがん幹細胞マーカーの発現と役割	石田 喬之	口腔顎顔面外科	2,600,000	補○委 日本学術振興会
口蓋裂形成術後の瘢痕拘縮分子メカニズムの解明と新規創傷被覆材開発への展開	岐部 俊郎	口腔顎顔面外科	1,300,000	補○委 日本学術振興会
口蓋裂形成手術後のろう孔発生を防止するための多血小板血漿を用いた臨床学的研究	松永 和秀	口腔顎顔面外科	650,000	補○委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血小板生理活性ペプチド定量測定による骨髄環境予測と横断的病態検査への応用展開	橋口 照人	検査部	5,980,000	補○ 委 日本学術振興会
血管内皮細胞由来microRNAによる糖尿病性血管障害機構の空間統合的解明	山口 宗一	検査部	5,460,000	補○ 委 日本学術振興会
赤血球のaging選別機構における脾微小血管透過性応答の機構解析	橋口 照人	検査部	1,300,000	補○ 委 日本学術振興会
血管・リンパ管新生による免疫環境修飾の分子機序の解析	橋口 照人	検査部	900,000	補○ 委 日本学術振興会
時間分解分光システムを用いた肝組織の酸化状態の無侵入襲的評価法の確立	安田 智嗣	集中治療部	1,560,000	補○ 委 日本学術振興会
AIDS予防財団福祉相談事業	古川 良尚	輸血・細胞治療部	800,000	補 委○ (公財)エイズ予防財団
単一ニューロン標識法による痛覚神経回路の解析	大野 幸	全身管理歯科治療部	2,080,000	補○ 委 日本学術振興会
悪性腫瘍における臨床病理学的因子の解明	米澤 傑	病理部	250,000	補 委○ (公社)肝属郡医師会立病院
膵胆管系腫瘍一難治性腫瘍一の早期診断システム確立	東 美智代	病理部	910,000	補○ 委 日本学術振興会
多発性口腔扁平上皮癌におけるDNAメチル化に関する研究	嶋 香織	病理部	1,300,000	補○ 委 日本学術振興会

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

20

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)適用の病理学的裏付け	堀之内 道子	病理部	1,430,000	補○委 日本学術振興会
地域基盤型医療プロフェッショナルナリズム教育の構築	田口 則宏	歯科総合診療部	1,430,000	補○委 日本学術振興会
骨再生誘導能を付与したジルコニアインプラント体の創出	河野 博史	歯科総合診療部	1,430,000	補○委 日本学術振興会
医薬品相互作用検知システム用の有害事象シグナル検知アルゴリズムの評価に関する研究	村永 文学	医療情報部	1,040,000	補○委 日本学術振興会
医療の質保証と医療費適正化に寄与する電子CPの実現に向けたPOMRの有効活用	岩穴口 孝	医療情報部	780,000	補○委 日本学術振興会
ヒブワクチン効果に影響するインフルエンザ菌莢膜遺伝子重複の細菌学的・疫学的研究	徳田 浩一	医療環境安全部	1,430,000	補○委 日本学術振興会
小児由来の腸管凝集性大腸菌のゲノム解析を通じた病原・薬剤耐性遺伝子伝播機構の研究	西 順一郎	医療環境安全部	1,820,000	補○委 日本学術振興会
遺伝子タイピングによる整形外科領域MRSA手術部位感染発症要因・感染対策の検討	川村 英樹	医療環境安全部	910,000	補○委 日本学術振興会
活性酸素測定による生体侵襲の定量化に関する研究	大脇 哲洋	地域医療支援センター	1,040,000	補○委 日本学術振興会
鹿児島県地域医療支援センター設置事業業務委託	大脇 哲洋	地域医療支援センター	37,133,000	補○委 鹿児島県

小計10

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経接着分子Casprを介したグリオーマ浸潤機構の解明と新規治療戦略	武田 泰生	薬剤部	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
がん幹細胞を標的とする新規がん分子標的治療薬の開発	池田 龍二	薬剤部	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
ポリコナゾールのCYP2C19遺伝子多型解析に基づく至適投与量の設定	金澤 直子	薬剤部	500,000	補○ 委	日本学術振興会
カンジダ感染症に対するキャンディン系抗真菌薬の有効血中濃度域の解明	茂見 茜里	薬剤部	500,000	補○ 委	日本学術振興会
緑膿菌感染症に対するパズフロキサシンの投与方法に関する検討	梅崎 靖弘	薬剤部	500,000	補○ 委	日本学術振興会
若年性特発性関節炎(JIA)患児の抱える痛みとQOLの関係	大迫 由紀	看護部	130,000	補○ 委	日本学術振興会
助産師の配置基準「適当数」から「適正配置」へ	黒江 奈央	看護部	650,000	補○ 委	日本学術振興会
L.pneumophilaがmiRNA動態によって強毒性を獲得するメカニズム	古城 剛	臨床技術部	600,000	補○ 委	日本学術振興会

小計8

合計208

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Tokushige A	Department of Cardiovascular Medicine and Hypertension, Advanced Therapeutics Cardiovascular and Respiratory Disorders, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Incidence and outcome of surgical procedures after coronary artery bypass grafting compared with those after percutaneous coronary intervention: a report from the Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study in Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2.	Circ Cardiovasc Interv. 2014 Aug;7(4):482-91.
2	Higo K	Department of Cardiovascular Medicine and Hypertension, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Successful Antemortem Diagnosis and Treatment of Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy.	Intern Med. 2014;53(22):2595-9. Epub 2014 Nov 15.
3	Matsumoto K	Department of Cardiovascular and Gastroenterological Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Replacement of the heavily calcified ascending aorta in aortic valve replacement.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2015 Mar;23(3):349-52.
4	Matsumoto K	Department of Cardiovascular and Gastroenterological Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Unchanged esophageal perforation after total aortic arch replacement.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2014 Oct 20.
5	Mukaihara K	Department of Cardiovascular and Gastroenterological Surgery, Kagoshima University	Migration of a retained temporary epicardial pacing wire into an abdominal aneurysm.	Eur J Cardiothorac Surg. 2015 Jul;48(1):169-70
6	Oda K	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Impact of a single nucleotide polymorphism upstream of the IL28B gene in patients positive for anti-HCV antibody in an HCV hyperendemic area in Japan.	J Med Virol. 2014 Nov;86(11):1877-85.
7	Oda K	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Clinical features of hepatocellular carcinoma associated with nonalcoholic fatty liver disease: a review of human studies.	Clin J Gastroenterol. 2015 Feb;8(1):1-9.
8	Taguchi H	Department of Digestive and Lifestyle Related Diseases, Human and Environmental Sciences, Health Research, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Endoscopic ultrasonography-guided transmural drainage of an infected hepatic cyst due to Edwardsiella tarda: a case report	Clin J Gastroenterol. 2014 Oct;7(5):422-8.
9	Hashimoto S	Department of Digestive and Lifestyle Related Disease, Health Research Course, Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Intracholecystic papillary-tubular neoplasm of the gallbladder presenting with jaundice.	Intern Med. 2014;53(20):2313-7.
10	Kurahara H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Closure of the pancreas in distal pancreatectomy: comparison between bare stapler and reinforced stapler.	Hepatogastroenterology. 2014 Nov-Dec;61(136):2367-70

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
11	Mori S	Department of Digestive, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Laparoscopic complete mesocolic excision via reduced port surgery for treatment of colon cancer.	Dig Surg. 2015;32(1):45-51
12	Arigami T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima	Decreased density of CD3+ tumor-infiltrating lymphocytes during gastric cancer progression.	J Gastroenterol Hepatol. 2014;29(7):1435-41
13	Kawasaki Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Gallbladder adenocarcinoma with sarcoid-like reaction in regional lymph nodes: report of a case.	BMC Cancer. 2014 Dec 13;14:946
14	Kurahara H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Predictors of early stages of histological progression of branch duct IPMN.	Langenbecks Arch Surg. 2015 Jan;400(1):49-56
15	Sakoda M	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine	Anatomical laparoscopic hepatectomy for hepatocellular carcinoma using indocyanine green fluorescence imaging.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2014 Dec;24(12):878-82
16	Urata M	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Computed tomography Hounsfield units can predict breast cancer metastasis to axillary lymph nodes.	BMC Cancer. 2014 Sep 30;14:730
17	Mori S	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Laparoscopic complete mesocolic excision with radical lymph node dissection along the surgical trunk for right colon cancer.	Surg Endosc. 2015 Jan;29(1):34-40
18	Omoto I	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Expression of vascular endothelial growth factor-C and vascular endothelial growth factor receptor-3 in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncol Lett. 2014 Apr;7(4):1027-1032
19	Omoto I	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Immunohistochemical evidence of association between ghrelin expression and tumor growth in esophageal carcinoma.	Anticancer Res. 2014 Jun;34(6):2727-33.
20	Kita Y	Department of Experimental Therapeutics, The University of Texas MD Anderson Cancer Center	Epigenetically regulated microRNAs and their prospect in cancer diagnosis	Expert Rev Mol Diagn. 2014 Jul;14(6):673-83

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
21	Okumura H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	The usefulness of neoadjuvant chemoradiation therapy for locally advanced esophageal cancer with multiple lymph-node metastases.	Ann Surg Oncol. 2014 Sep;21(9):2845-9
22	Kita Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Clinical and biological impact of cyclin-dependent kinase subunit 2 in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncol Rep. 2014 May;31(5):1986-92
23	Kawasaki Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Nrf2 is useful for predicting the effect of chemoradiation therapy on esophageal squamous cell carcinoma.	Ann Surg Oncol. 2014 Jul;21(7):2347-52
24	Okumura H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Biomarkers for predicting the response of esophageal squamous cell carcinoma to neoadjuvant chemoradiation therapy.	Surg Today. 2014 Mar;44(3):421-8
25	Matsuura E	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Visualization of HTLV-1-specific cytotoxic T lymphocytes in the spinal cords of patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	J Neuropathol Exp Neurol. 2015 Jan;74(1):2-14
26	Matsuura E	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Clinical presentation of axial myopathy in two siblings with HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP).	BMC Neurol. 2015 Feb 28;15:18
27	Nozuma S	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	PLoS One. 2014 May 6;9(5):e86144
28	Hiramatsu Y	Department of Neurology, National Hospital Organization Kagoshima Medical Center	Cerebral infarction associated with accessory middle cerebral arteries: two case reports.	Intern Med. 2014;53(12):1381-4
29	Hashiguchi A	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Neurofilament light mutation causes hereditary motor and sensory neuropathy with pyramidal signs.	J Peripher Nerv Syst. 2014 Dec;19(4):311-6
30	Bohara M	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	C-type natriuretic peptide modulates permeability of the blood-brain barrier.	J Cereb Blood Flow Metab. 2014 Apr;34(4):589-96

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
31	Habu M	Department of Biochemistry and Genetics; Department of Neurosurgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Ryk is essential for Wnt-5a-dependent invasiveness in human glioma.	J Biochem. 2014 Jul;156(1):29-38
32	Hirano H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	MRI T2 hypointensity of metastatic brain tumors from gastric and colonic cancers.	Int J Clin Oncol. 2014 Aug;19(4):643-8
33	Tokimura H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, University of Kagoshima	Intraoperative continuous monitoring of facial motor evoked potentials in acoustic neuroma surgery	Neurosurg Rev. 2014 Oct;37(4):669-76
34	Yamahata H	Department of Neurosurgery, Kagoshima University	Lateral Suboccipital Retrosigmoid Approach with Tentorial Incision for Petroclival Meningiomas: Technical Note	J Neurol Surg B Skull Base. 2014 Aug;75(4):221-4
35	Yamahata H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Efficacy and safety of the pterional keyhole approach for the treatment of anterior circulation aneurysms	Neurosurg Rev. 2014 Oct;37(4):629-36
36	Fujio S	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Thyroid storm induced by TSH-secreting pituitary adenoma: a case report	Endocr J. 2014 Nov 28;61(11):1131-6
37	Karki P	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Attenuation of inflammatory and neuropathic pain behaviors in mice through activation of free fatty acid receptor GPR40.	Mol Pain. 2015 Feb 12;11:6.
38	Watanabe M	Department of Pulmonary Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	A turn on and a turn off: BLT1 and BLT2 mechanisms in the lung.	Expert Rev Respir Med 8(4): 381-3
39	Mataki H	Department of Pulmonary Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Tumor-suppressive microRNA-206 as a dual inhibitor of MET and EGFR oncogenic signaling in lung squamous cell carcinoma.	Int J Oncol 46(3): 1039-50
40	Mataki H	Department of Pulmonary Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Downregulation of the microRNA-1/133a cluster enhances cancer cell migration and invasion in lung-squamous cell carcinoma via regulation of Coronin1C.	J Hum Genet 60(2): 53-61

小計10

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
41	Watanabe Y	Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Lung abscess mimicking lung cancer developed around staples in a patient with permanent tracheostoma.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Apr 23. [Epub ahead of print]
42	Aoki M	Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	A Case of Resected Plasma Cell Type Castleman's Disease with Intramediastinal Lymph Nodes Spread.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014;20 Suppl:682-5
43	Watanabe Y	Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Right Lower Lobe Autotransplantation for Locally Advanced Central Lung Cancer.	Ann Thorac Surg. 2015 Jan;99(1):323-6
44	Li JB	Department of Social and Behavioral Medicine, Division of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effects of aging on the plasma levels of nesfatin-1 and adiponectin.	Biomed Rep. 2014 Jan;2(1):152-156.
45	Cheng KC	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Silymarin induces insulin resistance through an increase of phosphatase and tensin homolog in Wistar rats.	PLoS One. 2014 Jan 3;9(1):e84550.
46	Haruta I	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Olanzapine-induced hypoglycemia in anorexia nervosa.	Endocrine. 2014 Aug;46(3):672-3.
47	Suzuki H	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Hesperidin Potentiates Ghrelin Signaling.	Recent Pat Food Nutr Agric. 2014 i6(1):60-3.
48	Inui A	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical & Dental Sciences	Microbiome, peptide autoantibodies, and eating disorders: a missing link between gut and brain.	Nutrition. 2015 Mar;31(3):544-5.
49	Inoguchi S	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Tumour-suppressive microRNA-24-1 inhibits cancer cell proliferation through targeting FOXM1 in Bladder cancer.	FEBS Lett. 2014 Aug 25;588(17):3170-9
50	Ishihara T	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Expression of the tumor suppressive miRNA-23b/27b cluster is a good prognostic marker in clear cell renal cell carcinoma.	J Urol. 2014 Dec;192(6):1822-30

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic breast surgery for centrally located breast cancer: a case series.	Gland Surg. 2014 Feb;3(1):62-73
52	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Impaired wound healing and expansion of a large ulcer after bevacizumab with paclitaxel for skin metastases from breast cancer: report of a case.	Surg Today. 2015 Apr;45(4):498-502
53	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic breast surgery combining partial mastectomy with immediate breast reshaping using a keyhole-shaped skin glandular flap for Paget's disease.	Surg Today. 2014 Sep;44(9):1783-8
54	Kijima Y	Department of Surgical Oncology, Breast and Endocrine Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic surgery in a Japanese patient with breast cancer in the lower inner quadrant area: partial mastectomy using horizontal reduction mammoplasty	Breast Cancer. 2014 May;21(3):375-8
55	Yanagimoto K	Department of Pediatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Immunoglobulin G values before treatment are correlated with the responsiveness to initial intravenous immunoglobulin therapy for Kawasaki disease.	Int Arch Allergy Immunol. 2014;164(2):83-8
56	Togami S	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagoshima University	Clinical usefulness of concentrated ascites reinfusion therapy (CART) for gynecological cancer patients with refractory massive ascites due to cancerous peritonitis.	Eur J Gynaecol Oncol. 2014;35(3):301-3
57	Togami S	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagoshima University	Can pelvic lymphadenectomy be omitted in stage IA2 to IIB uterine cervical cancer?	Int J Gynecol Cancer. 2014 Jul;24(6):1072-6
58	Nagano S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Doppler ultrasound for diagnosis of soft tissue sarcoma: efficacy of ultrasound-based screening score.	Radiol Oncol. 2015 Mar 25;49(2):135-40
59	Nagano S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Differentiation of lipoma and atypical lipomatous tumor by a scoring system: implication of increased vascularity on pathogenesis of liposarcoma.	BMC Musculoskelet Disord. 2015 Feb 22;16:36
60	Tsuru A	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Hairy/enhancer-of-split related with YRPW motif protein 1 promotes osteosarcoma metastasis via matrix metalloproteinase 9 expression.	Br J Cancer. 2015 Mar 31;112(7):1232-40

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
61	Tominaga H	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Risk factors for venous thromboembolism after spine surgery.	Medicine (Baltimore). 2015 Feb;94(5):e466
62	Yokouchi M	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Giant Cell Tumor of the Distal Phalanx of the Fourth Toe: A Case Report.	J Foot Ankle Surg. 2014 Dec 5. pii: S1067-2516(14)00452-9
63	Nagao-Kitamoto H	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Ribosomal protein S3 regulates GLI2-mediated osteosarcoma invasion.	Cancer Lett. 2015 Jan 28;356(2 Pt B):855-61.
64	Komiya S	Department of Orthopaedic Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Personal development through research.	J Orthop Sci. 2014 Sep;19(5):697-8
65	Yokouchi M	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Extended curettage and heat ablation for desmoplastic fibroma of the distal femur with a 12-year follow-up period: A case report.	Oncol Lett. 2014 Sep;8(3):1103-1106
66	Nagao-Kitamoto H	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	GLI2 is a novel therapeutic target for metastasis of osteosarcoma.	Int J Cancer. 2015 Mar 15;136(6):1276-84
67	Shimada H	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Metastatic bone tumors: Analysis of factors affecting prognosis and efficacy of CT and 18F-FDG PET-CT in identifying primary lesions.	Mol Clin Oncol. 2014 Sep;2(5):875-881
68	Yokouchi M	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Solitary breast metastasis from myxoid liposarcoma.	BMC Cancer. 2014 Jul 4;14:482
69	Sakamoto Y	Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Metastasis of osteosarcoma to the trapezius muscle: a case report.	World J Surg Oncol. 2014 Jun 4;12:176
70	Nagano S	Departments of Orthopaedic Surgery, Kagoshima University	Elastofibroma dorsii: Surgical indications and complications of a rare soft tissue tumor.	Mol Clin Oncol. 2014 May;2(3):421-424.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	Yoshifuku A	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Science	Adult-onset Still disease with peculiar persistent plaques and papules.	Clin Exp Dermatol. 2014 Jun;39(4):503-5
72	Katsue H	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Allergic reaction caused by acesulfame potassium in foods.	Contact Dermatitis. 2014 Oct;71(4):251- 2.
73	Uchida Y	Department of Dermatology Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Teicoplanin-induced purpuric eruption with leukocytoclastic vasculitis.	Eur J Dermatol. 2014 Nov-Dec;24(6):689- 90
74	Hatanaka M	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Cleaved CD147 shed from the surface of malignant melanoma cells activates MMP2 produced by fibroblasts.	Anticancer Res. 2014 Dec;34(12):7091-6
75	Jimura N	Department of Dermatology, Field of Sensory Organology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Rare case of Langerhans cell sarcoma with cutaneous manifestation arising on the inguinal region.	J Dermatol. 2014 Dec;41(12):1127-8
76	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Retinal morphologic changes and concentrations of cytokines in eyes with diabetic macular edema	Retina. 2014 Apr;34(4):741-8
77	Yamashita T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Relationship between supernormal sectors of retinal nerve fibre layer and axial length in normal eyes	Acta Ophthalmol. 2014 Sep;92(6):e481- 7
78	Kawano H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Toxic effects of extracellular histones and their neutralization by vitreous in retinal detachment	Lab Invest. 2014 May;94(5):569-85
79	Kamisanuki T	Department of Ocular Plastic & Orbital Surgery, Seirei Hamamatsu General Hospital	Adhesiotomy with grafting of fat and perifascial areolar tissue for adhesions of extraocular muscles after trauma or surgery	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 May;252(5):829-36
80	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effect of intravitreal triamcinolone acetonide or bevacizumab on choroidal thickness in eyes with diabetic macular edema	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jun 6;55(6):3979-85

小計10

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
81	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Choroidal structure in normal eyes and after photodynamic therapy determined by binarization of optical coherence tomographic images	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jun 3;55(6):3893-9
82	Sonoda S	Arnold and Mabel Beckman Macular Research Center, Doheny Eye Institute	Ceramide inhibits connective tissue growth factor expression by human retinal pigment epithelial cells	Cytokine. 2014 Aug;68(2):137-40
83	Yoshihara N	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Objective analyses of tessellated fundi and significant correlation between degree of tessellation and choroidal thickness in healthy eyes	PLoS One. 2014 Jul 28;9(7):e103586
84	Yamashita T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Individualized, spectral domain-optical coherence tomography-guided facedown posturing after macular hole surgery: minimizing treatment burden and maximizing outcome	Retina. 2014 Jul;34(7):1367-75
85	Yamashita T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Quantification of retinal nerve fiber and retinal artery trajectories using second-order polynomial equation and its association with axial length	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jul 29;55(8):5176-82
86	Yamashita T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Posterior pole asymmetry analyses of retinal thickness of upper and lower sectors and their association with peak retinal nerve fiber layer thickness in healthy young eyes	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Aug 12;55(9):5673-8
87	Terasaki H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Different Effects of Thrombin on VEGF Secretion, Proliferation, and Permeability in Polarized and Non-polarized Retinal Pigment Epithelial Cells	Curr Eye Res. 2015 Sep;40(9):936-45
88	Kawano H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Hyaluronan protects corneal endothelial cells against extracellular histones after phacoemulsification	J Cataract Refract Surg. 2014 Nov;40(11):1885-93
89	Terasaki H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Penetration of bevacizumab and ranibizumab through retinal pigment epithelial layer in vitro	Retina. 2015 May;35(5):1007-15
90	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Blood Components and OCT Reflectivity Evaluated in Animal Model	Curr Eye Res. 2014 Dec;39(12):1200-6

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
91	Sakamoto T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Experimental and numerical evaluation of inter-core differential mode delay characteristic of weakly-coupled multi-core fiber	Opt Express. 2014 Dec 29;22(26):31966-76
92	Shirasawa M	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Objective Determination of Optimal Number of Spectral-Domain Optical Coherence Tomographic Images of Retina to Average	PLoS One. 2014 Oct 22;9(10):e110550
93	Nagano H	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Transcutaneous immunization with phosphorylcholine induces antigen-specific mucosal and systemic immune responses in BALB/c mice.	Auris Nasus Larynx. 2015 Dec;42(6):478-82
94	Yoneyama T	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Efficacy of liver parenchymal enhancement and liver volume to standard liver volume ratio on Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI for estimation of liver function	Eur Radiol. 24(4); 857-865, 2014
95	Fukukura Y	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Contrast-enhanced CT and diffusion-weighted MR imaging: performance as a prognostic factor in Patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	Eur J Radiol. 83(4); 612-619, 2014
96	Kamimura K	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Quantitative evaluation of liver function with T1 relaxation time index on Gd-EOB-DTPA-Enhanced MRI : Comparison with signal intensity-based indices.	J of Mag Reson Imaging. 40(4); 884-889, 2014
97	Nakajo M	Department of Radiology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Correlation of(18)F-fluorothymidine uptake with pathological tumour size, Ki-6 and thymidine kinase 1 expressions in primary and metastatic lymph node colorectal cancer foci.	Eur Radiol. 24(12); 3199-3209, 2014
98	Nakajo M	Department of Radiology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Diagnostic performances of FDG-PET/CT and diffusion-weighted imaging indices for differentiating benign pheochromocytoma from other benign adrenal tumors	Abdom Imaging. 2014Nov11[Epub ahead of print]
99	Baba Y	Department of Radiology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Evaluation of split renal function before and after renal arterial embolization for angiomyolipoma using absolute ethanol.	Cardiovasc Intervent Radiol. 37(5); 1220-1225, 2014
100	Godai K	Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Peripheral administration of morphine attenuates postincisional pain by regulating macrophage polarization through COX-2-dependent pathway	Mol Pain. 2014 Jun 14;10:36

小計10

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
101	Kohjitani A	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Associations between the autonomic nervous system and the second derivative of the finger photoplethysmogram indices.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(5):501-8
102	Sugiyama K	Department of Dental Anesthesiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	A styletted tracheal tube with a posterior-facing bevel reduces epistaxis during nasal intubation: a randomized trial.	Can J Anaesth. 2014 May;61(5):417-22
103	Sugiyama K	Department of Dental Anesthesiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Mechanism of stylet-facilitated nasotracheal intubation. Reply	Can J Anaesth. 2014 Nov;61(11):1058
104	Ohno S	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Associations between blood pressure responses to acute stress and impaired renal function and serum uric acid level.	Clin Exp Hypertens. 2015 Jun 26:1-5
105	Ouchi K	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Dexmedetomidine dose-dependently enhances local anesthetic action of lidocaine.	J Oral Maxillofac Surg. 2014 Mar;72(3):474-80.
106	Manabe Y	Department of Systemic Management for Dentistry, Kagoshima University Medical and Dental Hospital	Appropriate head position for nasotracheal intubation by using lightwand device (Trachlight).	Anesth Prog. 2014 Summer;61(2):47-52
107	Ouchi K	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Required propofol dose for anesthesia and time to emerge are affected by the use of antiepileptics: prospective cohort study.	BMC Anesthesiol. 2015 Mar 15;15:34
108	Matsumoto S	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Anti-spastic effects of footbaths in post-stroke patients: a proof-of-principle study.	Complementary Therapies in Medicine 22(6): 1001-1009, 2014
109	Yamaguchi T	Department of Preventive Dentistry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Purification of a novel fibronectin binding protein from 'Granulicatella para-adiacens'.	Pathogens and Disease Volume 71, Issue 1, pages 73-80, June 2014
110	Tomonari H	Department of Orthodontics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	First molar crossbite is more closely associated with a reverse chewing cycle than anterior or premolar crossbite during mastication.	J Oral Rehabil. 2014 Dec;41(12):890-6

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
111	Kitashima F	Department of Orthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Modulation of the masticatory path at the mandibular first molar throughout the masticatory sequence of a hard gummy jelly in normal occlusion.	Cranio. 2014 Sep 1;2151090314Y000000020. [Epub ahead of print]
112	Tomonari H	Department of Oral Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Diverse contributions of Tas1r2/Tas2rs within the rat and mouse soft palate to sweet and bitter.	Neurosci Lett. 2014 May 21;569:63-7
113	Ohmure H	Department of Orthodontics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Influence of experimental esophageal acidification on masseter muscle activity, cervicofacial behavior, and autonomic nervous activity in wakefulness.	J Oral Rehabil. 2014 Jun;41(6):423-31
114	Tomonari H	Department of Orthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Posterior scissors-bite: Masticatory jaw movement and muscle activity.	J Oral Rehabil. 2014 Apr;41(4):257-65
115	Kuninori T	Department of Orthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Influence of maximum bite force on jaw movement during gummy jelly mastication.	J Oral Rehabil. 2014 May;41(5):338-45
116	Sakaguchi K	Department of Orthodontics, Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Association of problem behavior with sleep problem and gastroesophageal reflux symptoms.	Pediatr Int. 2014 Feb;56(1):24-30
117	Maeda A	Department of Orthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Changes in Grafted Autogenous Bone during Edgewise Treatment in Patients with Unilateral Cleft lip/palate or Alveolus.	Cleft Palate Craniofac J. 2014 Sep;51(5):525-32
118	Tomonari H	Department of Orthodontics, Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	The replacement of one first molar and three second molars by the mesial inclination of four impacted third molars in a Class II Division 1 adult patient	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2015 Jun;147(6):755-65
119	Iwasaki T	Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Three-dimensional cone-beam computed tomography analysis of enlargement of the pharyngeal airway by the Herbst appliance.	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2014 Dec;146(6):776-85
120	Inada E	Graduate School of Medical and Dental Sciences, Pediatric Dentistry, Kagoshima University	Relationship between nasal and skeletal landmarks on lateral cephalograms of adults.	Australian Journal of Forensic Sciences Volume 46, Issue 3, 2014 pages 339-347

小計10

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
121	Murakami D	Department of Pediatric Dentistry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Morphological differences of facial soft tissue contours from child to adult of Japanese males	Arch Oral Biol. 2014 Dec;59(12):1391-9
122	Iwasaki T	Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	The effect of rapid maxillary expansion on pharyngeal airway pressure during inspiration evaluated by computational fluid dynamics.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2014 Aug;78(8):1258-64
123	Suga H	Department of Pediatric Dentistry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Different therapeutic mechanisms of rigid and semi-rigid mandibular repositioning devices in obstructive sleep apnea syndrome.	J Craniomaxillofac Surg. 2014 Dec;42(8):1650-4
124	Shirakata Y	Department of Periodontology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	An exploratory study on the efficacy of rat dedifferentiated fat cells (rDFATs) with a poly lactic acid/hydroxylapatite (PLGA/HA) composite for bone formation in a rat calvarial defect model.	J Mater Sci Mater Med 2014; 25(3):899-908 (IF:2.379)
125	Nishi Y	Department of Oral and Maxillofacial Prosthodontics, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Advanced Therapeutic Course, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Survival of microorganisms on complete dentures following ultrasonic cleaning combined with immersion in peroxide-based cleanser solution.	Gerodontology. 2014 Sep;31(3):202-9
126	Murakami M	Department of Oral and Maxillofacial Prosthodontics, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Course for Advanced Therapeutics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Comparison of a saliva wetness tester and a moisture-checking device in patients with maxillary obturator prostheses	Gerodontology. 2014 Jun;31(2):83-8
127	Hashiguchi C	Department of Oral Maxillofacial Prosthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Influence of an antidiabetic drug on biomechanical and histological parameters around implants in type 2 diabetic rats	Implant Dent. 2014 Jun;23(3):264-9
128	Murakami M	Department of Denture Prosthodontic Restoration, Kagoshima University Medical and Dental Hospital	Fabrication of a Movable Obturator Following Maxillary Reconstruction with Slit-Shaped Fenestration	J Prosthodont. 2015 Apr;24(3):254-9
129	Ishii M	Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine	Multilayered adipose-derived regenerative cell sheets created by a novel magnetic tissue engineering method for myocardial infarction	Int J Cardiol. 2014 Aug 20;175(3):545-53
130	Ishii M	Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine	Vildagliptin stimulates endothelial cell network formation and ischemia-induced revascularization via an endothelial nitric oxide synthase-dependent mechanism	J Biol Chem. 2014 Sep 26;289(39):27235-45

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
131	Hijioaka H	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Primary intraosseous squamous cell carcinoma in association with recurrent ameloblastoma of the mandible: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 03/2015
132	Fuchigami T	Department of Biochemistry and Genetics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Regulation of IL-6 and IL-8 production by reciprocal cell-to-cell interaction between ameloblastoma and stromal fibroblasts through IL-1 α	Biochem Biophys Res Commun. 2014 Sep 5;451(4):491-6
133	Tezuka M	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Perceptual and videofluoroscopic analyses on relationship between backed articulation and velopharyngeal closure following cleft palate repair	Oral Science International Volume 11, Issue 2, May 2014, Pages 60-67
134	Matsunaga K	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Upward advancement of the nasolabial component prevents postoperative long lip following primary unilateral cleft lip repair	Cleft Palate Craniofac J. 2015 Mar 20. [Epub ahead of print]
135	Furukawa Y	Division of Blood Transfusion Medicine and Cell Therapy, Kagoshima University Hospital	Exacerbation of microcytic anemia associated with cessation of anti-retroviral therapy in an HIV-1-infected patient with beta thalassemia.	J Infect Chemother. 2014 Jun;20(6):387-9.
136	Takenouchi K	Department of Laboratory and Vascular Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Upregulation of non- β cell-derived vascular endothelial growth factor A increases small clusters of insulin-producing cells in the pancreas.	Exp Clin Endocrinol Diabetes. 2014 May;122(5):308-15
137	Namino F	Clinical Laboratory Unit, Kagoshima University Hospital	The optimal setting of complex fractionated atrial electrogram software in substrate ablation for atrial fibrillation.	J Arrhythm. 2015 Feb;31(1):6-11
138	Kusuyama J	Department of Biochemistry and Molecular Dentistry, Field of Developmental Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Low Intensity Pulsed Ultrasound (LIPUS) Influences the Multilineage Differentiation of Mesenchymal Stem and Progenitor Cell Lines through ROCK-Cot/Tpl2-MEK-ERK Signaling Pathway.	J Biol Chem. 2014 Apr 11;289(15):10330-44
139	Bandow K	Department of Oral Biochemistry, Field of Developmental Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	AMP-activated protein kinase (AMPK) activity negatively regulates chondrogenic differentiation	Bone. 2015 May;74:125-33
140	Maeda A	Department of Orthodontics, Field of Developmental Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Induction of CXCL2 and CCL2 by pressure force requires IL-1 β -MyD88 axis in osteoblasts	Bone. 2015 May;74:76-82

小計10

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
141	Tsuru A	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Enrichment of bacteria samples by centrifugation improves the diagnosis of orthopaedics-related infections via real-time PCR amplification of the bacterial methicillin-resistance gene.	BMC Res Notes. 2015 Jul 3;8:288.
142	Hamada T	Department of Molecular and Cellular Pathology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Anti-apoptotic effects of PCP4/PEP19 in human breast cancer cell lines: a novel oncotarget.	Oncotarget. 2014; 5: 6076-608
143	Yamamoto M	Department of Molecular Oncology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Abcb10 knockout mice causes anemia with protoporphyrin IX and iron accumulation: Abcb10 is essential for heme biosynthesis in vivo.	Mol Cell Biol. 2014; 34: 1077-1084
144	Noguchi H	Departments of Pathology and Cell Biology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health	Depletion of apoptosis signal-regulating kinase 1 prevents bile duct ligation-induced necro-inflammation and subsequent peribiliary fibrosis.	Am J Pathol. 2014; 184: 644-661
145	Hatanaka K	Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima	The hyaline vascular type of Castleman's disease of the ovary: a case report.	Int J Surg Pathol. 2014; 22: 652-655.
146	Hatanaka K	Department of Molecular and Cellular Pathology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Pulmonary rhabdomyomatous dysplasia of the newborn in neurofibromatosis type 1.	Pathol Res Pract. 2014; 210: 318-320.
147	Hiraki T	Department of Human Pathology, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	A rare case of internal jugular vein aneurysm with massive hemorrhage in neurofibromatosis type 1.	Cardiovasc Pathol. 2014; 23: 244-247
148	Kono H	Department of Dental Education, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	An Analysis of Background Factors Influencing Selection of Residency Facility for Dental Students in Universities Located in Rural Areas in Japan.	Open Dent J. 2015 May 15;9:159-67
149	Nakayama A	Oral Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	During development intense Sox2 expression marks not only Prox1-expressing taste bud cell but also perigemmal cell lineages.	Cell Tissue Res. 2015 Mar;359(3):743-53
150	Nakayama A	Department of Oral Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Primary papillary carcinoma arising from ectopic thyroid tissue in the cervical lymph node	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology Volume 27, Issue 2, March 2015, Pages 240-244

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
151	Yamaguchi K	Department of Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Intermittent but not sustained hypoxia activates orexin-containing neurons in mice.	Respir Physiol Neurobiol. 2015 Jan 15;206:11-4
152	Uto Y	Dept. of Medical Information Sciences Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Development of an electronic instruction system to promote multidisciplinary teams.	Stud Health Technol Inform. 2014;201:140-4
153	Matsumoto K	Department of Clinical Pharmacy and Pharmacology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Factors affecting treatment and recurrence of Clostridium difficile infections.	Biol Pharm Bull. 2014;37(11):1811-5
154	Tokuda K	Department of Infection Control and Laboratory Diagnostics, Tohoku University Graduate School of Medicine	A survey conducted immediately after the 2011 Great East Japan Earthquake: evaluation of infectious risks associated with sanitary conditions in evacuation centers.	J Infect Chemother. 2014 Aug;20(8):498-501.
155	Nagano S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Analysis of surgical site infection after musculoskeletal tumor surgery: risk assessment using a new scoring system.	Sarcoma. 2014;2014:645496
156	Owaki T	Community-based Medicine, Graduate School of Medical and Dental Health, Kagoshima University	Present status of endoscopic mastectomy for breast cancer.	World J Clin Oncol. 2015 Jun 10;6(3):25-9
157	Sugawara H	Department of Pharmacology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Functional characterization of neural-restrictive silencer element in mouse pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) gene expression	J Mol Neurosci. 2014 Nov;54(3):526-34
158	Iwanaga T	Department of Medical Imaging, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School	Operator-bias-free Comparison of Quantitative Perfusion Maps Acquired with Pulsed-continuous Arterial Spin Labeling and Single-photon-emission Computed Tomography.	Magnetic Resonance in Medical Sciences Vol. 13 (2014) No. 4 p. 239-249

小計8

合計158

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	宮田 昌明	心臓血管内科	心臓に対して減負荷である和温療法の効果と機序	臨床心不全のいちばん大事なところ60
2	松本 和久	心臓血管外科	胸骨縦切開アプローチでエタノール注入を施行した左房と肺動脈を圧迫する気管支嚢胞	胸部外科, Vol.67, No.10, pp.899-903 (2014).
3	上田 英昭	心臓血管外科	腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後Ⅱ型エンドリークに対して開腹結紮術を行った1例	日本心臓血管外科学会雑誌 Vol. 43 (2014) No. 3
4	基 俊介	心臓血管外科	4回の摘出術で長期生存している後腹膜悪性腫瘍の1例.	日本消化器外科学会雑誌 46(11), 868-873, 2013
5	佐々木 文郷	消化器内科	難治性直腸狭窄に対しRadial Incision and Cutting(RIC)法を用いた狭窄解除術が有効であった1例	日本消化器内視鏡学会雑誌 57(2), 159-164, 2015
6	東 泰志	消化器外科	包括支払い制度の臨床倫理上の問題点と対策	日本医療マネジメント学会雑誌 14(4), 213-217, 2014-03
7	又木 雄弘	消化器外科	教室にて術前化学療法を行った切除可能膵癌の検討	胆膵の病態生理 30(1), 25-29, 2014
8	又木 雄弘	消化器外科	膵癌-80歳以上の高齢者に対する膵癌治療の検討-	消化器外科, Vol.37, No.9, pp.1439-1445 (2014)
9	夏越 祥次	消化器外科	下咽頭癌と食道癌の重複癌に対する治療戦略-食道癌の治療-	耳鼻と臨床 2014年11月 60巻補冊1号
10	前村 公成	消化器外科	膵癌・胆道癌-基礎と臨床の最新研究動向-	日本臨牀 73巻増刊号3 2015年3月20日
11	藏原 弘	消化器外科	傍大動脈リンパ節転移を伴うcStageⅣb膵癌に対してS-1+gemcitabine療法により組織学的CRが得られた1例	膵臓 Vol29;898-904 2014
12	松浦 英治	神経内科	HTLV-1 associated myelopathy(HTLV-1関連脊髄症;HAM) 日常臨床におけるHTLV-1の理解とHAM診断のピットフォール	脊椎脊髄ジャーナル
13	松浦 英治	神経内科	HAM:HTLV-1関連脊髄症	別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患
14	樋口 雄二郎	神経内科	臨床的にCharcot-Marie-Tooth 病が疑われた304例のエクソーム解析による網羅的遺伝子診断	Peripheral Nerve
15	羽生 未佳	脳神経外科	下垂体-視交叉部腫瘍	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.26 神経症候群
16	藤尾 信吾	脳神経外科	下垂体腫瘍発生機構	ホルモンと臨床 60(10), 765-770, 2012-10
17	細山 浩史	脳神経外科	てんかん	検査と技術 42
18	梅原 正	呼吸器外科	妊娠36週で自然気胸を起こしドレーナージ後に再膨張性肺水腫をきたした1例	日本呼吸器外科学会雑誌Vol. 28 (2014) No. 2 p. 149-152
19	中村 好宏	呼吸器外科	いますぐ役立つ診断・治療デバイス ー気管支鏡ー	胸部外科
20	網谷 真理恵	心身医療科	悪液質のメカニズム, 悪液質とサルコペニア	リハビリテーション栄養アプローチ, 18-28, 2014.2

小計20

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
21	網谷 真理恵	心身医療科	【サルコペニアとフレイルー臨床と研究の最前線】悪液質とサルコペニア	Geriatric Medicine 老年医学,52: 393-396, 2014.4
22	緒方 慶三郎	心身医療科	認知行動療法(最新肥満性学 基礎・臨床研究の最前線)	日本臨床 72巻増刊号4 ページ 513-516 (2014.5)
23	西田 美由紀	心身医療科	【ストップ ザ 肥満症】摂食調節機構と食行動	臨床と研究 (0021-4965)91巻6号 ページ 721-726(2014.06)
24	鈴木 甫	心身医療科	消化管ホルモンの新展開(特集 消化管アップデート) -- (内視鏡の進歩)	診断と治療 102巻7号 ページ1075-1080(2014.7)
25	小山 憲一郎	心身医療科	認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療: WAIS-IIIを利用した心理社会的アプローチ	消化器内科 59巻3号 ページ237-241(2014.9)
26	堤 明純	心身医療科	医学部卒業時に求められる行動科学に関するコンピテンシー:デルファイ法による調査結果	日本行動医学会誌 20巻2号 ページ63-68(2014.10)
27	網谷 真理恵	心身医療科	Evidence based消化器心身医学: 心身ホルモン:グレリン	心身医学 54巻12号 ページ1093-1099(2014.12)
28	乾 明夫	心身医療科	精神神経疾患における神経ペプチド自己抗体(特集 WFSBP2013シンポジウム)	日本生物学的精神医学会誌 = Japanese journal of biological
29	網谷 真理恵	心身医療科	Helicobacter pylori感染症による免疫応答反応と知覚過敏	Helicobacter Research, 18:219-224,2014
30	網谷 真理恵	心身医療科	医学部教育における行動科学カリキュラムの提案	医学教育 (0386-9644)46巻1号 Page37-40(2015.02)
31	網谷 真理恵	心身医療科	卒前医学教育における心身医学教育の現状と普及への課題 心身医学教育を卒前教育に導入する際の問題点とその対策	心身医学 (0385-0307)55巻2号 Page133-
32	福 祐貴	心身医療科	【機能的胃腸障害のすべて】機能的ディスペプシア 機能的ディスペプシアの心身医学的側面	医学のあゆみ (0039-2359)252巻6号 Page716-
33	西村 博昭	血液浄化療法部	処女膜閉鎖症に起因した排尿障害の1例	西日本泌尿器科
34	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	動脈硬化症	医学のあゆみ Vol.252 No.5
35	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	糖尿病血管合併症(大血管合併症、細小血管合併症)の病態	糖尿病治療のニューパラダイム 第1巻
36	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	第29回心血管イベント抑制を目指した糖尿病患者の脂質管理ー1次予防・2次予防における治療戦略	nature REVIEWS 日本語版
37	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	有痛性神経障害の診断と治療 局所性神経障害(単神経障害など)	糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第6版
38	尾辻 真由美	糖尿病・内分泌内科	糖尿病セルフケアに関する運動自己効力感尺度作成の試み	糖尿病Vol. 58 (2015) No. 3 p. 174-182
39	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	糖尿病神経障害の最近の進歩 4.対症療法	糖尿病 第57巻 第8号
40	堂地 ゆかり	糖尿病・内分泌内科	小脳失調を呈した抗GAD抗体陽性1型糖尿病の1例	糖尿病Vol. 57 (2014) No. 8 p. 640-645

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
41	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	Brush Up! CDE 糖尿病合併症辞典 糖尿病性神経障害	糖尿病診療マスター 第12巻 第3号 増刊号
42	吉村 道由	糖尿病・内分泌内科	高齢者の手足しびれ感の診断のポイント	日内会誌 第103巻 第8号
43	平田 宗嗣	乳腺・甲状腺外科	腋窩副乳癌の3例	乳癌の臨床29巻3号 309;85-94 2014
44	石塚 貴周	神経科精神科	認知症症状を呈した高齢初発てんかん4例	精神科 25, 555-560, 2014
45	吉田 健二	神経科精神科	Chorea-acanthocytosisの1例	運動障害、24: 7-12, 2014
46	中村 雅之	神経科精神科	神経症候群(第2版)IV良性成人型ミオクローヌステんかん	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ、27: 377-379, 2014
47	中村 雅之	神経科精神科	神経症候群(第2版)II-その他の神経疾患を含めて- 有棘赤血球舞踏病(Chorea-acanthocytosis)	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ、27:173-177, 2014
48	春日井 基文	神経科精神科	医療観察法入院処遇対象者の身体合併症に対する総合病院精神科における治療構造設定と問題点	臨床精神医学 43, 1269-1272, 2014
49	高取 由紀子	神経科精神科	精神疾患患者における身体的治療の同意についての問題提起 -特徴的な4症例を通して-	総合病院精神医学 26, 397-403, 2014
50	西川 拓朗	小児科	Methotrexate髄注後に急性脳脊髄炎を発症して重篤な神経障害を残した急性リンパ性白血病	臨床血液Vol. 55 (2014) No. 11 p. 2306-2310
51	徳田 浩一	小児科	【小児感染症の予防2014】自然災害(震災等)時の感染の予防・災害時における感染症の予防	小児科臨床
52	川野 孝文	小児外科	臍ヘルニア	今日の臨床サポート
53	鳥飼 源史	小児外科	【最近の肥厚性幽門狭窄症】経幽門経管栄養と幽門筋の肥厚	小児外科雑誌
54	加治 建	小児外科	【ビジュアル小児外科疾患のフォローアップ・プログラム-手術直後から遠隔期の問題点まで】腹壁破裂・臍帯ヘルニア	小児外科雑誌
55	山田 和歌	小児外科	急性胃腸炎に続発して十二指腸潰瘍穿孔を発症した幼児の3例	日本小児外科学会雑誌Vol. 50 (2014) No. 2 p. 226-229
56	春松 敏夫	小児外科	新生児舌根部甲状舌管嚢胞の2例	日本小児外科学会雑誌Vol. 50 (2014) No. 4 p. 798-801
57	山田 耕嗣	小児外科	基本を教えて! 小児慢性機能性便秘性-鑑別疾患-	小児外科雑誌
58	家入 里志	小児外科	手術ナビゲーションシステム-腹腔鏡下脾臓摘出術に対するaugmented reality(拡張現実)技術を用いたナビゲーションシステム手術	小児外科雑誌
59	川野 孝文	小児外科	消化器 消化管奇形	こどもの病気 遺伝について聞かれたら
60	小林 裕明	産科、婦人科	ロボットの登場により大きく変わる婦人科がん手術	鹿児島産科婦人科学会雑誌

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
61	春山 真紀	産科、婦人科	大量腹水貯留を来したMeigs症候群の1例	鹿児島産科婦人科学会雑誌
62	森 まり絵	産科、婦人科	腹腔鏡下子宮全摘術後に生じたmultiple parasitic myomasの1例	鹿児島産科婦人科学会雑誌
63	川原 裕二	産科、婦人科	子宮全摘後にS状結腸憩室から結腸腔瘻を発症した1例	鹿児島産科婦人科学会雑誌
64	沖 利通	産科、婦人科	多嚢胞性卵巣症候群(PCOS) Up to Date PCOSと子宮内膜癌	産科と婦人科
65	岩元 一郎	産科、婦人科	(産婦人科処方のすべて一すぐに使える実践ガイド) 婦人科編 更年期・老年期 不眠	臨床婦人科産科
66	小林 裕明	産科、婦人科	シリーズで学ぶ最新知識センチネルリンパ節 子宮頸がんにおけるセンチネルリンパ節同定法	産婦人科の実際
67	小林 裕明	産科、婦人科	(あなたもできる最先端の婦人科手術) 広汎子宮頸部摘出術	臨床婦人科産科
68	金蔵 拓郎	皮膚科	紅皮症	皮膚疾患最新の治療 2015-2016
69	金蔵 拓郎	皮膚科	シルクによる再生医療材料の開発-衣料から医療へ-[事例4]創傷被覆材	工業材料
70	下川 充芳	皮膚科	【リンフォーマ・白血病】化学療法中にB型肝炎ウイルス再活性化が認められた成人T細胞白血病/リンパ腫の1例	皮膚科の臨床
71	金蔵 拓郎	皮膚科	世界の科学者(229) Qianjin Lu先生	西日本皮膚科
72	金蔵 拓郎	皮膚科	世界の科学者(231) Annamari Ranki先生	西日本皮膚科
73	黒岩 宣宏	眼科	先天瞳孔閉鎖による続発緑内障の1例	臨床眼科
74	川野 純廣	眼科	霰粒腫として治療されていたメルケル細胞癌の1例	肝属郡医師会報
75	寺崎 寛人	眼科	眼科医のための先端医療「炎症性サイトカインと加齢黄斑変性に関する新知見」	あたらしい眼科
76	斉之平 真弓	眼科	特集 ロービジョンケアの基本をマスターしよう 「代表的なニーズとその対処法」	臨床眼科
77	山切 啓太	眼科	硝子体手術アジュバント 知っておきたいコツと落とし穴(第3回) トリアムシノロンアセトニド(Q&A)	臨床眼科 68(4), 432-436, 2014-04
78	山切 啓太	眼科	何が見える?何がわかる? OCT(第17回) OCTとWatzke-Allen法による黄斑円孔の評価	臨床眼科
79	山下 敏史	眼科	何が見える?何がわかる? OCT(第18回) ガス下OCTと黄斑円孔手術への応用.	臨床眼科 68(6), 784-788, 2014-06
80	中尾 久美子	眼科	【眼底疾患と悪性腫瘍】仮面症候群	臨眼

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
81	中尾 久美子	眼科	【眼内炎症(ぶどう膜炎、強膜炎)の治療方針】 特殊ケース:妊婦、小児、高齢者	あたらしい眼科
82	山切 啓太	眼科	この患者さんに何と答える?加齢黄斑変性	眼科ケア
83	山切 啓太	眼科	硝子体手術を始めるときに知っておくべき基本 知識と基本セッティング	メジカルビュー 東京
84	山切 啓太	眼科	網膜血管疾患アップデート 糖尿病黄斑浮腫の 手術治療の進歩	あたらしい眼科 31(8), 1113-1118, 2014-08
85	上笹貫 太郎	眼科	主訴からみた眼救急疾患 「複視」	専門医のための眼科 診療クオリファイ21
86	上笹貫 太郎	眼科	外傷で救急処置が必要な眼疾患 「眼瞼/外傷 性眼瞼下垂」	専門医のための眼科 診療クオリファイ21
87	上笹貫 太郎	眼科	外傷で救急処置が必要な眼疾患 「外傷後の 眼瞼形成について、専門医に送る際の注意点 を教えてください」	専門医のための眼科 診療クオリファイ21
88	上笹貫 太郎	眼科	IV眼窩骨折の整復術 「5. 眼窩内壁骨折の治 療」	眼手術学
89	上笹貫 太郎	眼科	II 眼瞼手術 実践編 E上眼瞼下垂 「Aponeurosisとミュラー筋(挙筋腱膜群)を利用 した眼瞼下垂手術	超アトラス 眼瞼手術
90	斉之平 真弓	眼科	基礎がわかるロービジョンケア・ポイントミニ BOOK	眼科ケア
91	斉之平 真弓	眼科	これから始めるロービジョン外来ポイントアドバ イス 拡大読書器の選定と指導について	OCULISTA
92	大塚 寛樹	眼科	眼科医の手引 硝子体注射による網膜毒性に ついて	日本の眼科
93	山下 高明	眼科	海外医学情報「光干渉断層計による正常後眼 部断面の解剖学的特徴とその名称案」	日本の眼科
94	山下 高明	眼科	Glaucoma Q&A「OCT緑内障1、2」	Frontal of Glaucoma
95	坂本 泰二	眼科	眼科責任編集	今日の治療指針
96	坂本 泰二	眼科	眼科疾患最近の動向	今日の治療指針
97	坂本 泰二	眼科	眼底出血	今日の治療指針
98	坂本 泰二	眼科	第1章 解剖/発生	今日の治療指針
99	坂本 泰二	眼科	眼救急疾患スクランブル	専門医のための眼科 診療クオリファイ21
100	大塚 寛樹	眼科	【最新臨床高血圧学-高血圧治療の最前線-】 臓器障害・合併症評価の検査 一般必須検査 眼底検査	日本臨床

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
101	吉浦 敬	放射線科	最新臨床脳卒中(上)ー最新の診断と治療ー IX.画像検査・診断 pH強調画像	日本臨床. 72(増刊号 5);523-527,2014.
102	内匠 浩二	放射線科	悪性抹消神経鞘腫(malignant peripheral nerve sheath tumor(MPNST))	WHO分類による脳腫 瘍のMRI. 122-123; 金原出版株式会社
103	内匠 浩二	放射線科	泌尿器疾患のガイドラインー診療の流れと画像 検査の位置づけー 副腎腫瘍	画像診断. 34(12); 1274-1284, 2014. (2014.08)
104	馬ノ段 智一	放射線科	Case of the month 出題 Castleman's disease, hyaline vascular type	画像診断35(2);261, 2015. (2015.02)
105	内匠 浩二	放射線科	Case of the month 出題 mucoepidermoid carcinoma	画像診断35(3); 421, 2015. (2015.03)
106	犬童 寛子	顎顔面放射線科	放射線の生物学的影響	県歯科医師会報
107	榎畑 京	麻酔科	術中酸化ストレス物質産生に対する麻酔法の影 響-レミフェンタニルと硬膜外麻酔の比較-	麻酔
108	上村 裕一	麻酔科	スガマデクスナトリウム(MK-8616,Org 25969)の 筋弛緩拮抗作用ー浅い筋弛緩状態からの回 復ー	麻酔
109	吉田 輝	リハビリテーション部	ラット摘出排尿筋収縮と排尿反射に対する温熱 の影響	日本温泉気候物理医 学会雑誌 77(3): 227- 236, 2014
110	稲田 絵美	小児歯科	血友病Aを有する脳性麻痺患者に対し歯周病 原細菌の推移を考慮して歯周病管理を行った1 例.	障害者歯科
111	松山 孝司	歯周病科	下顎右側臼歯部中間欠損にインプラント治療を 行った1症例	日本口腔インプラント 学会誌 2014;27(3):427-428
112	白方 良典	歯周病科	骨格性下顎前突症を伴う広汎型重度慢性歯周 炎に包括的治療を行った1症例	日本歯周病学会誌 2014;56(4):442-450
113	野口 和行	歯周病科	特殊な歯周病の診断と治療	日本歯科保存学会誌 2014;57(6):477-483
114	峰元 里子	冠・ブリッジ科	プライマーの組み合わせ使用が接着性レジンと金 銀パラジウム合金の接着に与える影響	接着歯学
115	梶原 雄太郎	冠・ブリッジ科	コンポジットレジンジャケットクラウンの繰り返し衝 撃に対する破折抵抗性に関する研究	接着歯学
116	田上 直美	冠・ブリッジ科	MMA系レジンセメントへのナノフィラー添加がせん 断疲労限度に及ぼす影響	接着歯学
117	西村 正宏	義歯補綴科	一歩進んだスキルを身につける 可撤性補綴装 置支台としてのインプラント活用術②補綴学的 な観点から見たインプラント支台による可撤性補 綴の適応-可撤性義歯の支持・維持・把持の役 に立つインプラントの使い方とは?	歯界展望
118	下松 孝太	口腔顎顔面外科	舌背を基部とする舌縁弁で再建を行った下唇 癌の1例	日本口腔外科学会雑 誌Vol. 60 (2014) No. 8 p. 490-493
119	下松 孝太	口腔顎顔面外科	顔面変形をきたした小児の上顎骨腺様歯原性 腫瘍の1例	小児口腔外科学会誌
120	野添 悦郎	口腔顎顔面外科	下顎智歯2回法抜歯の実際	口腔外科医のための ハンドマニュアル'14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
121	中村 典史	口腔顎顔面外科	患者家族への心理的サポートを知ってほしい口唇裂・口蓋裂の現状	ザ・クインテッセンス
122	徳田 浩一	医療環境安全部 感染制御部門	自然災害(震災等)時の感染の予防 災害時における感染症の予防	小児科臨床
123	西 順一郎	医療環境安全部 感染制御部門	βラクタマーゼと耐性菌 話題 ESBL産生腸管凝集性大腸菌(EAEC)	感染症内科
124	西 順一郎	医療環境安全部 感染制御部門	蜂巣炎(蜂窩織炎)	日本医師会雑誌
125	西 順一郎	医療環境安全部 感染制御部門	肺炎球菌ワクチンの効果と血清型変化への対応	日本小児科医会会報
126	岩川 純	地域医療支援センター	透析患者における異所性肺石灰化症	THE LUNG perspectives
127	西田 ゆかり	臨床技術部 検査部門	脾臓原発組織球肉腫の1例	日本臨床細胞学会雑誌Vol. 53 (2014) No. 6 p. 473-476
128	竹下 かおり	臨床技術部 検査部門	心臓原発滑膜肉腫の1例 -胸水中の細胞像について-	日本臨床細胞学会雑誌Vol. 54 (2015) No. 1 p. 69-70
129	岩永 崇	臨床技術部 放射線部門	簡単！RESTでCSF Time-SLIP CINE	3rd GyroCup 2014
130	福重 雅美	臨床技術部 歯科部門	矯正治療中の口唇顎裂もしくは口唇口蓋裂を伴う患者の保護者における心理状態と関心事	日本口蓋裂学会雑誌 Vol. 40 (2015) No. 1 p. 13-22

小計10

合計130

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 研究計画立案後の審査承認までの流れについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の目的・定義、委員会の設置、指導、情報開示等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の基礎、研究倫理、GCPについて	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師として共通に求められている基礎的知識、技術、マナー等の修得を目指したいわゆる初期臨床研修（2年間）を終了した医師は、その後も引き続き研修を行うことになるが、（各診療科により異なるが通算して概ね5～6年の研修期間）その間、各科の指導医のもと入院患者及び外来患者の診療に従事するとともに、症例検討会、抄読会並びに種々のカンファレンス等に参加することにより一層の研鑽を行うことはもとより、地域のメディカルセンターとしてより先進的な医療の開発、研究を行っているとともに、それぞれの専門的な高度の知識と技術の修得に努めている。

また、それぞれの科の標榜するための条件となると思われる各科関連学会の定める専門医、認定医の資格取得のための指導体制も十分に整っている。

その他、日進月歩の医学の世界において医師の生涯学習の観点から、地域の病院との連携を促進し地域医療の発展に寄与することを目的とした「研修登録医」制度を設け、本学医学部附属病院において病棟回診、症例検討会その他の研究会並びに患者の診療等に参加することを通じて、先進的な知識や技術を修得するために1年間の研修を行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	184人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大石 充	心臓血管内科	教授	25年	
井戸 章雄	消化器内科	教授	30年	
高嶋 博	神経内科	教授	25年	
井上 博雅	呼吸器内科	教授	30年	
吉満 誠	血液・膠原病内科	准教授	16年	
西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	教授	30年	
井本 浩	心臓血管外科	教授	35年	
夏越 祥次	消化器外科	教授	34年	
家入 里志	小児外科	教授	21年	
佐野 輝	神経科精神科	教授	33年	
河野 嘉文	小児科	教授	34年	
金蔵 拓郎	皮膚科	教授	31年	
中川 昌之	泌尿器科	教授	34年	
堂地 勉	産科、婦人科	教授	38年	
坂本 泰二	眼科	教授	30年	
黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	35年	
吉浦 敬	放射線科	教授	27年	
垣花 泰之	救急科	教授	30年	
有田 和徳	脳神経外科	教授	32年	
永野 聡	整形外科・リウマチ外科	講師	16年	
乾 明夫	心身医療科	教授	37年	
下堂 蘭 恵	リハビリテーション科	教授	25年	
宮脇 正一	矯正歯科	教授	27年	

山崎 要一	小児歯科	教授	32年	
野口 和行	歯周病科	教授	29年	
南 弘之	冠・ブリッジ科	教授	26年	
西村 正宏	義歯補綴科	教授	21年	
杉浦 剛	口腔外科	教授	24年	
中村 典史	口腔顎顔面外科	教授	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1) ・研修の主な内容	肝疾患診療連携ネットワーク研修会
・研修の期間・実施回数	平成26年7月27日, 11月13日, 平成27年2月15日・年3回
・研修の参加人数	122名, 120名, 106名
2) ・研修の主な内容	がん臨床試験協力参加メディカルスタッフの為のセミナー
・研修の期間・実施回数	平成26年8月30日・年1回
・研修の参加人数	1名
3) ・研修の主な内容	がん医療ネットワークナビゲーター教育研修セミナー
・研修の期間・実施回数	平成26年10月26日・年1回
・研修の参加人数	1名
4) ・研修の主な内容	腎移植に関する研修
・研修の期間・実施回数	年2回
・研修の参加人数	15名
5) ・研修の主な内容	院内感染対策に関する研修
・研修の期間・実施回数	年2回
・研修の参加人数	10名
6) ・研修の主な内容	糖尿病看護師研修
・研修の期間・実施回数	平成26年12月12日・年1回
・研修の参加人数	60名
7) ・研修の主な内容	看護師に対する小児科研修
・研修の期間・実施回数	平成26年度・年12回
・研修の参加人数	各回10～15名

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 8) ・研修の主な内容 | CT, MRI検査に関する医療講習会 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年9月10日・年1回 |
| ・研修の参加人数 | 122名 |
| 9) ・研修の主な内容 | 下肢動脈病変に治する血管内治療について |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年10月16日・年1回 |
| ・研修の参加人数 | 15名 |
| 10) ・研修の主な内容 | 放射性ヨード治療とヨード制限について |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年12月24日・年1回 |
| ・研修の参加人数 | 23名 |
| 11) ・研修の主な内容 | インプラント研修会 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年10月29日～平成27年3月18日・年6回 |
| ・研修の参加人数 | 合計143名 |
| 12) ・研修の主な内容 | 言語治療に関する研修会 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年8月3日～平成27年9月11日・年1回 |
| ・研修の参加人数 | 1名 |
| 13) ・研修の主な内容 | HIV研修会 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年11月10日・年1回 |
| ・研修の参加人数 | 60名 |

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 1) ・研修の主な内容 | 新規放射線取扱者教育訓練 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年5月13日-14日, 6月26日-27日・年2回 |
| ・研修の参加人数 | 各100名 |

- 2) ・研修の主な内容 補綴科合同連絡会
- ・研修の期間・実施回数 平成26年4月10日～平成27年3月5日・年11回
 - ・研修の参加人数 合計283名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- 1) ・研修の主な内容 促通反復療法をはじめとしたリハビリテーションの研修
- ・研修の期間・実施回数 平成26年1月～12月
 - ・研修の参加人数 合計86名
- 2) ・研修の主な内容 歯周病は包括的治療
- ・研修の期間・実施回数 平成26年11月10日・年1回
 - ・研修の参加人数 50名
- 3) ・研修の主な内容 歯周病の診断と治療 特殊な歯周病を中心に
- ・研修の期間・実施回数 平成26年6月19日・年1回
 - ・研修の参加人数 1,000名
- 4) ・研修の主な内容 糖尿病と歯周病に関する研修会～糖尿病治療における医科歯科
- ・研修の期間・実施回数 平成27年2月1日・年1回
 - ・研修の参加人数 80名
- 5) ・研修の主な内容 口腔外科診療見学
- ・研修の期間・実施回数 平成26年9月14日～平成26年10月14日・年1回
 - ・研修の参加人数 1名
- 6) ・研修の主な内容 HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業実施研修
- ・研修の期間・実施回数 平成26年11月20日, 21日, 27日, 28日, 12月4日, 5日, 12日
 - ・研修の参加人数 7名

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 7)・研修の主な内容 | 薬局薬剤師を対象とした化学療法ならびに検査に関する勉強会 |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年度・年3回 |
| ・研修の参加人数 | 合計417名 |
| 8)・研修の主な内容 | がんプロフェッショナル養成基盤推進プランがん薬物療法セミナー |
| ・研修の期間・実施回数 | 平成26年10月～平成27年3月・年4回 |
| ・研修の参加人数 | 合計148名 |

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状						
管理責任者氏名	病院長 熊本 一郎						
管理担当者氏名	<table border="0"> <tr> <td>各診療センター部門科長</td> <td>薬剤部長 武田 泰生</td> </tr> <tr> <td>看護部長 向窪 世知子</td> <td>臨床技術部長 弓場 裕之</td> </tr> <tr> <td>総務課長 島森 俊光</td> <td>医務課長 馬場 園誠</td> </tr> </table>	各診療センター部門科長	薬剤部長 武田 泰生	看護部長 向窪 世知子	臨床技術部長 弓場 裕之	総務課長 島森 俊光	医務課長 馬場 園誠
各診療センター部門科長	薬剤部長 武田 泰生						
看護部長 向窪 世知子	臨床技術部長 弓場 裕之						
総務課長 島森 俊光	医務課長 馬場 園誠						

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課、薬剤部 各診療センター 一部門課、放射線部、診療情報管理室	(1) 患者に関する記録 患者ID番号(1患者=1記録)により管理している。 (2) エックス線フィルム 平成25年度から手術室撮影画像をデジタル化し、フィルムレスで管理している。CT、MRI、RI、一般撮影、透視・血管撮影、乳房撮影等は、デジタル画像として院内サーバーにて保存・管理している。 過去のエックス線フィルムは各部門科で保存している。部門科によってはデジタルライザーによるデジタル化を行い、保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医務課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部
第規 一則 号第 に一 掲条 げの 十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況 及び 第九 条の	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医務課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課

	二十	医療に係る安全管理を行	医療環境安全	
	第一	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	部 医務課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 熊本 一郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 島森 俊光		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧場所を設置しており、要求があった場合には対応ができる状況である。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 組織に関する基本的事項3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療の安全管理体制の確保に関する事2. 医療に関する安全管理指針に関する事3. 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事4. 医療の安全管理のための教育及び研修に関する事5. その他医療の安全管理等に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第1回 全職員で取り組む医療安全 ～高いリスクと信頼の中で～ (90分)</p> <p>第2回 医療安全を変える新たなチーム医療RRSについて (90分)</p> <p>第3回 医療用麻薬の適正使用に関する研修会 (60分)</p> <p>第4回 医療安全・感染対策推進のために ～本院の事例をもとに～ (30分)</p> <p>第5回 除細動器の基本操作と人工呼吸器における当院の現状 (30分)</p> <p>第6回 輸血と医療安全 (30分)</p> <p>第7回 第10回CT・MRI検査に関する医療安全講習会 (70分)</p> <p>第8回 医療安全シンポジウム「内視鏡検査・治療及び造影剤検査・血管内治療に関する安全対策」(60分)</p> <p>第9回 処方箋に対する疑義照会について (30分)</p> <p>第10回 医療行為と民事訴訟 (60分)</p> <p>第11回 術前に休薬を要する薬剤、周術期の使用に注意を要する薬剤について (30分)</p> <p>第12回 深部褥瘡を予防するコツ (30分)</p> <p>第13回 人はだれでも間違える大変だけどやらねば族(T.T) -安全な医療のために- (30分)</p> <p>第14回 除細動器の基本的な操作方法・人工呼吸器の換気モードと呼吸波形 (30分)</p> <p>第15回 自殺予防 (30分)</p> <p>第16回 医療ガス (30分)</p> <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。</p>	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を毎年度改訂している。 2. 医療安全管理強化月間（5月，11月）を設定している。 	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 (2名) ・ 無
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 (6名) ・ 無
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (12) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を確保するための改善方策に関すること 2. 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関すること 3. インシデントの分析に関すること 4. インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関すること 5. 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関すること 6. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること 8. その他医療安全対策の推進に関すること 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策の基本方針2. 組織体制3. 職員の教育及び研修4. 報告に関する基本方針5. 対応に関する基本方針6. その他	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染制御と患者の安全確保を主な目的として、院内における感染症発生状況を把握し、感染対策に関する事項（原因分析や改善策等）の審議、諸施策を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">第1回「医療安全・院内感染対策推進のために～本院の事例をもとに～」第2回「消毒薬の適正使用」第3回「手指衛生」第4回「結核」第5回「エボラ出血熱」第6回「インフルエンザ」第7回「感染性胃腸炎」 <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映会による研修会及びe-learningによる研修を実施している。</p> <p>※ 上記研修会の他、以下の者を対象とした研修を別途実施している。</p> <ul style="list-style-type: none">* 新規採用者、中途採用者…針刺し・切創対策や廃棄物処理に関する研修* 初期研修医…感染症診療・検査・抗菌薬・標準予防策に関する研修* 清掃・院内配送等の委託業務従事者…標準予防策、針刺し発生時の対応、環境整備等に関する研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染発生時に部署からICTに報告2. 注意すべき病原体の検出時に検査部からICTに報告3. 週1回検査部から病棟別主要注意菌検出状況をまとめた感染情報レポートをICTに提出4. 重大な感染事例の発生時はICTから病院長に報告5. ICTスタッフ会議、感染症対策委員会において報告6. リスクマネージャー連絡会議を通じて院内に周知	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新規採用者対象：薬剤の使い方・麻薬の取り扱いについて<4/3>2. 研修医対象：処方せんの手書きと薬剤部見学<4/8>3. 新規採用看護師：安全に知識：薬剤・注射薬の基礎<6/3>4. 全職員対象：医療用麻薬の適正使用に関する研修会<6/11>5. 全職員対象：処方せんに対する疑義照会について<9/26>6. 全職員対象：術前に休薬を必要とする薬剤、周術期の使用に注意を要する薬剤について<11/27> <p>※4～6については、研修会当日に参加できなかった職員を対象に、録画DVD上映による研修会およびe-learningによる研修会を実施している。</p> <p>※上記の他、病棟薬剤師が各部署のスタッフに対し、医薬品の安全管理に関連する講義等を行っている（平成26年度は10回実施）。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医薬品の採用・購入について2. 医薬品の管理について3. 患者に対する投薬指示から調剤までについて4. 患者に対する投薬や薬剤管理指導について5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いについて6. 他施設（医療機関）との連携について	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 入院時に薬剤師が持参薬を確認した際、「術前に休薬を必要とする薬剤・周術期の使用に注意を要する薬剤」についてはカルテにその旨記載するようにした。2. 抗がん剤曝露対策について化学療法委員会を通じて検討し、医療安全管理マニュアルの改訂を行った。3. 看護師が抗がん剤取扱時の具体的な手順・注意事項については、作業中である。4. 抗がん剤血管外漏出防止と対処について化学療法委員会を通して検討し、医療安全管理マニュアルの改訂を行った。5. HB肝炎再燃防止のため、対象薬剤処方時に薬剤師が検査状況を確認し、未検査時は個々のカルテに注意喚起を行っている。6. 後発医薬品導入に向けて、対象薬剤の情報収集、評価を行い、薬事審査委員会を通して検討中である。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容：	
特定機能病院において特に研修が必要な7種の医療機器は年2回の研修を行い、また新規導入医療機器の使用前研修も行っている。その他の医療機器も日常点検方法および業務引き継ぎ時研修を実施し、必要に応じて年に1回以上の研修を行い記録している。	
病院全体の医療従事者を対象に、「除細動器の基本的な操作方法」と「人工呼吸器における加温加湿について」の内容で平成27年7月9日に研修会を実施し、安全使用に関する事や注意事項等について研修を行った。平成27年12月に除細動器と人工呼吸器に関する安全使用に関する研修会の開催を予定している。(放射線部門)平成27年9月15日に「第11回CT、MRI検査に関する医療安全講習会」に医療従事者に対する医療機器・医療安全のための研修を行う予定。(検査部門)2014年4月24日髄液検査・生化学分析装置の機器説明会を機器操作担当者を中心に実施した。2014年5月21日日本光電生理検査室システム説明会を実施した。2014年10月7日～8日生化学自動分析装置のソフトウェアバージョンアップについての研修を回覧により実施した。(リハ部門)リハロボットや電気治療機器などリハ関連の医療機器の取り扱い方法を研修会を実施。(歯科部門)科用診療台(ユニット)、インプラント用機器、新規購入機器の研修を実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無)	
・ 保守点検の主な内容：	
平成27年度初めに例年通り医療機器保守点検計画を立案し、計画に沿って点検を行っている。特定機能病院において特に点検が必要とされる7種の医療機器はもちろん、各部門において、診療で使用されている医療機器についても点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
医療機器の安全情報の収集方法は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)からの医療機器の有効性及び安全性に関する情報の収集(PMDAナビ)、そのナビ情報に付随する公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの医療事故情報、臨床工学技士会、日本診療放射線技師会並びに国立大学放射線技師会医療安全情報等により収集している。PMDA情報及び医療事故情報収集等事業報告書等は臨床技術部各部門へ配信し、全員が同じ情報の共有、周知を行っている。さらに、年に複数回の医療機器安全管理検討委員会、医療機器安全管理担当者会議を開催し、検討した結果を病院医療安全管理委員会へ報告し周知している。また、医療機器管理ソフトMARISで安全性情報を病院端末から全職員が閲覧できるようにしている。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 審査体制区分4 (Ver. 6.0) 認定番号：GB0308-03 認定日：平成24年10月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院概要で、法令による医療機関の承認・公費負担医療等指定状況等の公表をしている。 また、ホームページにおいて、各診療科等の特色を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救急患者及び複数疾患等においては、診療科を越えて連携して治療にあたっている。	